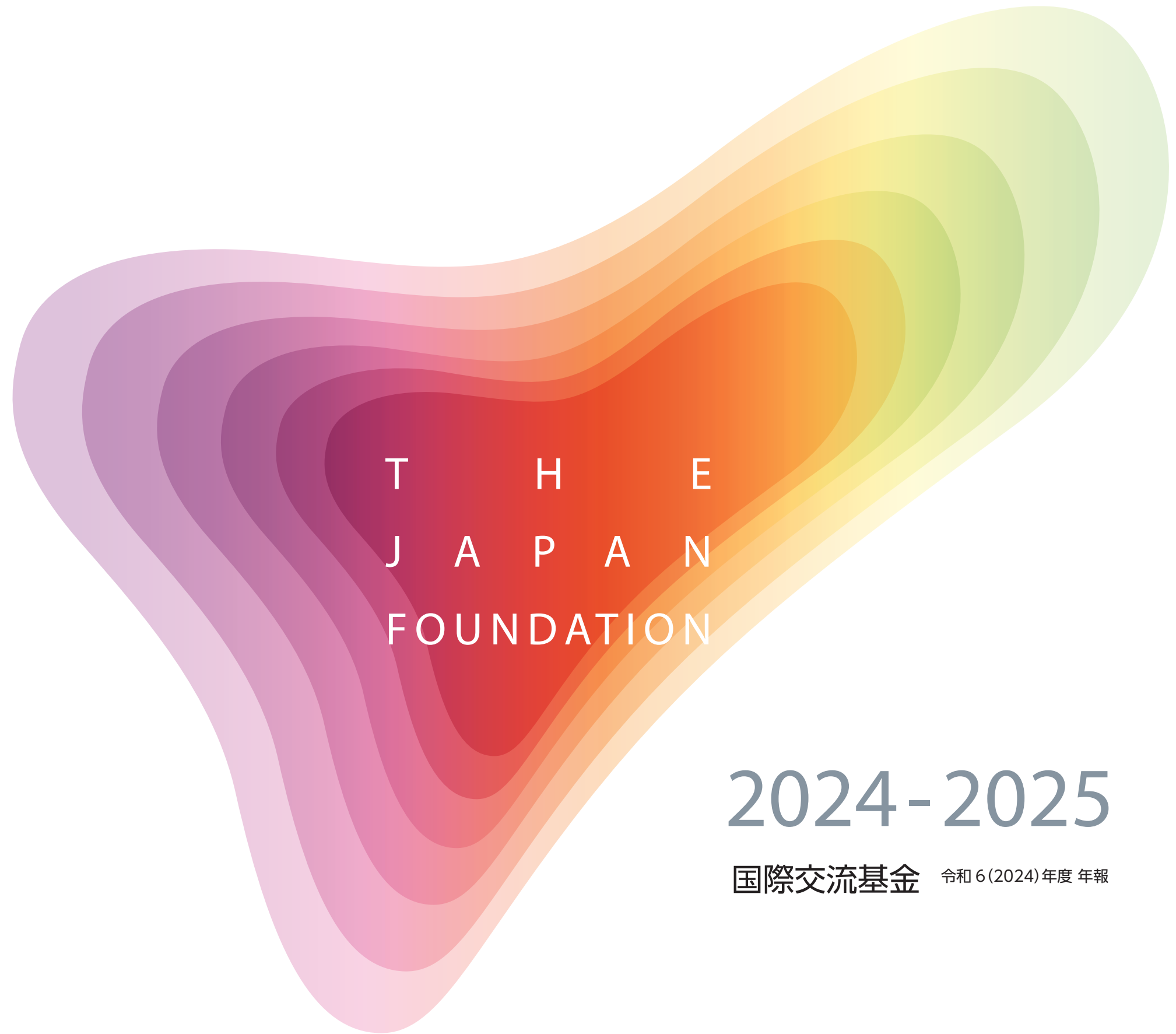




THE  
JAPAN  
FOUNDATION

2024-2025

国際交流基金 令和6(2024)年度 年報

国際交流基金  
JAPAN FOUNDATION JF 

国際交流基金 令和6(2024)年度 年報  
2025年10月発行  
編著・発行／独立行政法人国際交流基金 ブランド推進部広報課  
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-4  
TEL 03-5369-6075 FAX 03-5369-6044  
編集・制作／株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ

国際交流基金  
JAPAN FOUNDATION JF 

# 日本の友人をふやし、 世界との絆をはぐくむ

国際交流基金は、「文化」と「言語」と「対話」を通じて日本と世界をつなぐ場をつくり、人々の間に共感や信頼、好意をはぐくんでいきます。

独立行政法人国際交流基金(JF)は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。「文化芸術交流」、「海外における日本語教育」、「日本研究・国際対話」の三つの分野を柱として、本部、京都支部、二つの附属機関(日本語国際センター及び関西国際センター)、さらに 26 の海外事務所(2025年3月31日時点)をベースに活動しています。世界と日本の人々が、お互いの理解と絆を一層深められるよう、さまざまな交流をつくり出していきます。

## 文化芸術交流

海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、言語の違いを越えて、相手への興味と共感を生み出します。日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、人々の心の距離を近づけます。

文化  
Culture

## FIELDS

「文化芸術交流」、  
「海外における日本語教育」、  
「日本研究・国際対話」の  
三つのフィールドで  
事業を展開しています。

対話  
Dialogue

## 日本研究・国際対話

海外における日本研究への支援や世界との対話に持続的に取り組むことにより、相互理解と信頼を深め、共通課題の解決に向けたグローバルな協働や人的ネットワークの形成を推進しています。

## 海外における 日本語教育

世界のより多くの人々に日本語を学ぶ機会を提供し、各国の日本語教育が自立的・継続的に発展していくための取り組みを行っています。多文化共生社会の実現といった、時代の要請に対応する取り組みの充実にも努めています。

言語  
Language

## APPROACHES

文化の幅広い分野で活動する人々をサポートし、継続的な交流が可能となるような機会の創出と環境づくりを行います。

## ORGANIZE

### 企画する・主催する

展覧会や舞台公演、国際会議、海外の文化人の招へい等、文化交流が行われるための機会を自ら創出しています。

## SUPPORT

### 助成する・支援する

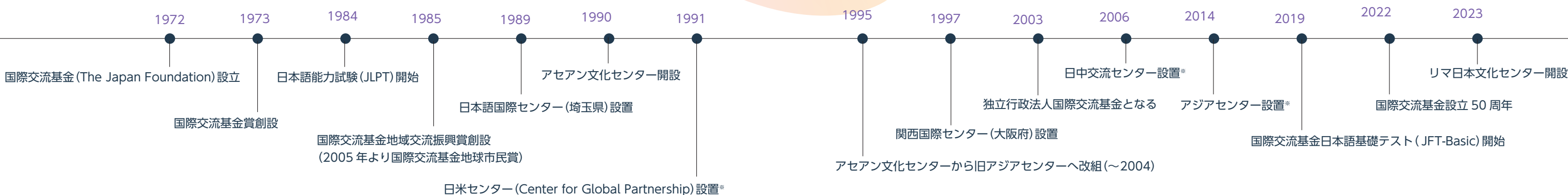
文化交流のために活動する人々に、資金の一部を提供したり、多くの人の活動を容易にするツール、機会や場所を提供する等、文化交流活動を側面から支えます。

## NETWORK / INFORMATION

### ネットワークをつくる・交流の土台をつくる

文化交流活動を行う人にとって必要な情報や素材を収集したり、人と人とのネットワークをつくる等、国際文化交流の土台づくりとすそ野の拡大を継続的にを行っています。

## JAPAN FOUNDATION HISTORY



\*日中交流センター、日米センター、アジアセンターは 2022 年 4 月 1 日をもって、組織改編されました。



# THE JAPAN FOUNDATION

## 2024-2025

### 理事長からのごあいさつ

2024年には訪日外国人旅行者数が過去最多の3687万人に達し、多くの旅行者が日本文化に触れ、体験する機会を得ました。こうした国際交流の広がりは喜ばしい一方で、近年、国際情勢が混沌としつつある中、国家間の安全保障やコンフリクトを未然に防止する意味において、文化交流や対話を通じた人的ネットワークの構築といったソフトパワーの重要性が一層高まっていると感じています。

国際交流基金(JF)では、2024年から10年間にわたり、ASEANを中心とするアジア諸国と、日本語教育や文化芸術、日本研究や国際対話の分野で、互いの価値を認め合う包括的な人的交流事業「次世代共創パートナーシップ—文化のWA2.0—」を開始しました。このプロジェクトは、「日本語パートナーズ派遣事業」と「双方向の知的・文化交流事業」を軸に、心と心のふれあいを通じて、多層的な人的ネットワークの強化や、対象地域と日本との将来にわたる強い信頼関係の構築を目指すものです。

初年度である2024度には、ASEANの現地日本語教師や現地の人々との交流を目的に、日本語パートナーズ325名を12か国・地域に派遣。受入校の教師を対象とした訪日研修や、日本語学習者への招へい研修も実施されました。また、知的・文化交流の一環として「TASC 2024 —Take Actions for

Social Change—日ASEANユース・フォーラム」において、「2050年に向けて、より良い世界を共に創る」というビジョンの実現に向け、ASEAN10か国と日本の大学生計20名が、対話と協働を通じた課題解決のためのアクションプランを作成しました。また、その他の地域においても、25か国・26の海外事務所などを通じて、「文化(文化芸術交流)」「言語(日本語教育)」「対話(日本研究・国際対話)」の3つの分野で、幅広い事業を世界中で展開しました。

「文化」分野では日・トルコ外交関係樹立100周年を記念し、塩田千春氏の個展がイスタンブールで開催され、50万人以上の来場者を記録。また、2024年8月には、日本映画・映像の無料常時配信サイト「JFF Theater」を開始し、2025年3月までに155か国・地域で約6万人の方々に日本映画の魅力をお届けすることができました。

「言語」分野では、日本語教育機関への支援や、教師・専門家を対象とする研修、学習教材やeラーニングコースの開発・提供、日本語試験等を行いました。特に、日本語能力試験(JLPT)は日本国内及び海外95か国・地域で実施し、年間応募者数は過去最高の約172万人を記録。国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic)の受験者も約17万人となりました。一方で、双方の日本語試験において、実施から結果発表に至るプロセスにお

ける円滑な遂行が妨げられる事案が発生しました。再発防止のための諸対策を入念に検討・実施し、試験の信頼性の維持・向上に引き続き努めてまいります。

「対話」分野では朝日新聞社と連携した「朝日地球会議2024」において、日本と他国の文化人・知識人が対談するイベントを共催。AI技術の危険性や各国の視点から見たAI開発の可能性など、今世界で注目を集めるAI技術の課題について議論を深めました。また、日・カリブ交流年2024記念事業の一環として、ジャマイカ、バルバドスにおいて、現地でも関心の高い障害者の社会参加・社会包摂について、柔道を題材に交流事業を行いました。

2025年は戦後80周年の節目の年になります。この間国際社会の中で、日本の平和が維持されてきたことに対する感謝の気持ちを胸に、これからも国際交流基金が掲げるミッション「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ」を深く心に刻みながら、内外での積極的な活動や交流を通じ、異文化との信頼を育み、未来志向で希望を共有できるパートナーづくりに向けて取り組んでまいります。皆様のご理解・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2025年10月  
独立行政法人国際交流基金(JF) 理事長 **黒澤 信也**

### Contents

- 1 国際交流基金(JF)の概要
- 3 理事長からのごあいさつ
- 5 次世代共創パートナーシップ—文化のWA2.0—

#### 国際交流基金の事業

- 7 文化[文化芸術交流]
- 10 言語[海外における日本語教育]
- 15 対話[日本研究・国際対話]
- 19 顕彰事業
- 21 2024海外事務所の取り組み

#### 資料編 事業実績

- 27 文化芸術交流
- 28 海外における日本語教育
- 29 日本研究・国際対話
- 30 世界の拠点紹介
- 31 民間からの資金協力
- 33 財務諸表
- 36 諮問委員会等／組織図
- 37 ウェブサイト・ソーシャルメディアのご案内

# 次世代共創パートナーシップ

－文化の WA2.0－

**inspiring resonance** 共鳴を、未来の息吹に。



アジアの豊かな未来をともにつくる、国際交流基金の次世代プロジェクトがはじまりました。

国際交流基金 (JF) は、2024年から10年間にわたって、日本と ASEAN の次世代の交流促進と人材育成を目的とする包括的な人的交流事業「次世代共創パートナーシップ－文化の WA2.0－」を、日本語教育、文化芸術、日本研究、国際対話の分野で実施します。ASEAN 諸国等との間で双方向の交流事業を行い、共に創造する関係を築きます。

JF は、2013年から約10年間にわたって「文化の WA (和・環・輪) プロジェクト～知り合うアジア～」と題する一連の交流事業を通して、日本とアジア諸国との双方向の文化交流を促進、強化するさまざまな活動を展開しました。「次世代共創パートナーシップ－文化の WA2.0－」は、それを発展的に継続し、日本語パートナーズ事業、双方向の知的・文化交流事業を軸に、心と心のふれあいを通じて、多層的な人的ネットワークの強化や、対象地域と日本との将来にわたる強い信頼関係の構築を目指します。

## 日本語パートナーズ派遣事業

ASEAN を中心とするアジア各国に、日本語授業のアシスタントや日本文化の紹介を行う「日本語パートナーズ (NP)」を派遣し、現地との絆を深める活動を継続的に強化します。

- 「日本語パートナーズ (NP)」の派遣
- NP 受入校の教師や日本語学習者の訪日研修
- 帰国した NP 経験者が多文化共生社会の実現に貢献できる活動への支援等

次世代共創パートナーシップ－文化の WA2.0－の主要事業である日本語パートナーズ派遣事業では、アジアの中等教育機関等に、日本語授業のアシスタントや日本文化の紹介を行う日本語パートナーズ (NP) を派遣しています。

アジアとの交流に熱意を持った NP たちは、派遣先の学校で日本語教師や生徒に対し、母語話者として生きた日本語を届け、それぞれの経験や強みを活かして多様でリアルな日本の姿を伝えています。一方、NP 自身も現地の言葉や文化を学び、現地の人々と交流して絆を深めています。

また、JF では帰国した NP 経験者向けのフォローアップを行っており、NP 経験者が相互に交流できる機会を提供するとともに、多文化共生分野で活躍したいと考える NP 経験者に対して国内の多文化共生の現状や先進事例について学ぶことのできる「多文化共生ワークショップ」を実施しています。



派遣先の学校で活動する日本語パートナーズの様子 (インドネシア)



日本語パートナーズ経験者を対象とした多文化共生ワークショップの様子

## 双方向の知的・文化交流事業

相互理解の上に成り立つコラボレーションの機会を創出することで、人と人の強い絆を培い、世界の架け橋となる次世代人材を育てます。

- 気候変動、防災等の地域に共通する幅広い多様なテーマでの知的対話の促進や共同研究の支援
- 美術、舞台、音楽、映像、スポーツ等の分野での人的ネットワーキングや協働事業
- 初等・中等教育機関教師の招へい・交流 等

### Asian Producers' Platform Camp (APP キャンプ) 2024 マレーシア



Producers' Connect Japan (PCJ) との共催で、2024年7月13日～20日にマレーシアのクアラルンプール及びバナンで開催された「Asian Producers' Platform Camp (APP キャンプ)」へ日本からの参加者6名を派遣しました。

APP キャンプでは毎年開催都市を変え、約1週間にわたり各国からの参加者が共同生活を行います。各国の文化や社会状況、文化政策、アーティストらによる実践例等に関する知見を深め、参加者間での意見交換やプレゼンテーションを行うことで、信頼関係の醸成、自身の能力向上を図っています。10回目を迎えた今回は、15か国・地域から50名の参加者が集まり、5つのグループに分かれてそれぞれのテーマに基づいたリサーチを行いました。参加者からは、「本事業へ参加しなければ得られなかったネットワークや信頼関係が構築できた」、「各国の参加メンバーと共にそれぞれが拠点とする国のバックグラウンドについて意見交換をし、知見を深められた」などネットワークを深めることができたとの声が寄せられました。

事業の詳細は専用ウェブサイトにて掲載

「次世代共創パートナーシップ－文化の WA2.0－」特設サイト

<https://asiawa.jpf.go.jp/>

### TASC (日 ASEAN ユース・フォーラム) －Take Actions for Social Change 2024－



日本 ASEAN 友好協力50周年を記念して、2023年度、今後10年間継続するプログラムとして、日本と ASEAN の大学生交流プロジェクトを新設しました。

2年目の2024年度は、公募で選抜した、ASEAN 全10か国の大学の学生16名と日本の大学生4名、計20名の学生の参加を得、「2050年に向けて、より良い世界を共に創る」という大きなビジョンの実現に向けて、「健康と福祉」のテーマを掲げました。国籍混交の学生5名ごと4チームに分かれ、3か月間にわたって、オンライン研修、インドネシアでのフィールドトリップ、訪日研修を重ね、対話と協働を通じて課題解決のためのアクションプランを共に作成しました。

参加学生からは、「国境や文化を越えて社会課題に取り組む仲間たちと出会えた、これまでの人生で最も刺激的な学びと喜び。間違いなく自分の将来に大きな影響を与える」、「日本と ASEAN が本気で『一緒に未来をつくっていける』と感じ、自分にも行動できるという自信を持てた」といった感想が寄せられました。これまでに事業に参加した TASC 卒業生たちはアラムナイを作り、交流を継続しています。

紹介動画も YouTube にて公開中

<https://www.youtube.com/watch?v=pSlUbuBndU>

# Culture 文化

## 文化芸術交流

海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、  
言語の違いを越えて、相手への興味と  
共感を生み出します。  
日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、  
人々の心の距離を近づけます。



第60回 ヴェネチア・ビエンナーレ 国際美術展  
日本館展  
"Yuko Mohri: Compose", 2024.  
Installation, Japan Pavilion at the 60th  
International Art Exhibition - La Biennale  
di Venezia. Photo by kugeyasuhide.  
Courtesy of the artist, Project Fulfill Art  
Space, mother's tankstation, Yutaka  
Kikutake Gallery, Tanya Bonakdar  
Gallery.



海外巡回展「妖怪大行進:日本の異形のものたち」  
パキスタン国立銀行美術館(カラチ)



舞台芸術国際共同制作 KAAT 神奈川芸術劇場  
× Vanishing Point(英国)  
『品川猿の告白 - Confessions of a Shinagawa  
Monkey』  
撮影: 細野晋司



第62回ボローニャ国際児童図書展  
JF | JBBYブース

## 日本の豊かな文化芸術を海外へ紹介

伝統芸能から現代アートまで多様な日本文化の魅力を、展覧会、舞台公演、翻訳出版、映画等さまざまな形で世界に向けて紹介しています。2024年度は、日・トルコ外交関係樹立100周年を記念して、相互への親近感や理解をさらに深めることを目的に、トルコにおいてさまざまな日本文化紹介事業を行いました。また、日本とASEAN諸国における文化芸術諸分野の専門家が交流する事業も始動しました。オンラインを活用した取り組みを継続してより広い層に日本の文化を届けつつ、それぞれの分野で専門家をはじめとする人と人が直接顔を合わせて対話する交流事業を積極的に行いました。

### 日・トルコ外交関係樹立100周年記念事業

日・トルコ外交関係樹立100周年を記念し、トルコで日本の多様な文化を紹介するさまざまな事業を行いました。2024年10月に行った舞踏カンパニー山海塾による『あわせ鏡のはざまで—うつし』(演出・振付・デザイン: 天児牛大、2008年初演)公演は、トルコ最大の舞台芸術フェスティバルであるイスタンブール演劇祭で国際プログラムのオープニングを飾り、会場は連日ほぼ満席となりました。2024年9月には、国内外で活躍する現代美術家を紹介する企画展「塩田千春: Between Worlds」展をイスタンブール・モダンで開催、赤い糸を使ったインスタレーションは多くの人を魅了し、50万人を超える人が来場、その人気の高さから会期が9か月も延長されました。日本とトルコの交流100年の歴史の上に、相互の文化への関心の高さと、交流の絆を再確認する記念事業となりました。



「塩田千春: Between Worlds」展  
Chiharu Shiota  
Between Worlds, 2024  
Installation: wool, suitcases  
Istanbul Museum of Modern Art, Istanbul, Turkey  
Photo by Kayhan Kaygusuz  
© JASPAR, Tokyo, 2024 and the artist



『あわせ鏡のはざまで—うつし』より  
© Yoichiro Yoshikawa

### 交流の基盤づくり—専門家同士の対話の機会創出

国や言語、文化を超えて専門家同士が絆を深め、交流を重ねることは、新たな芸術を作りだし、次なる交流を生み出すために不可欠です。文化芸術諸分野において、諸分野の専門家交流事業を行いました。

美術分野では、石橋財団の協力を得て、欧州(ドイツ、イタリア、スイス)及び米州(カナダ、ブラジル)から計15名の専門家を日本へ招へいし、関東及び地方都市の芸術祭、美術館、ギャラリーなどを視察しました。本事業を通して、日本と各国における美術関係者同士の親交が深まり、帰国後は日本とカナダ協働でオンライン座談会が実施されるなど、交流が続いています。

舞台芸術分野では、ASEAN諸国からアーティストやフェスティバルディレクター等10名を日本へ招へいし、日本の舞台関係者との相互理解を深め、新たな創作活動の可能性を探る機会を提供しました。また、日本からもアーティスト5名をシンガポールに派遣し、現地専門家と意見交換や、創作現場・公演の視察を通じて、国際的ネットワークを広げ、今後の持続的な交流と協働の基盤を築きました。

文学・文芸分野では、トルコから7名の若手〜中堅の翻訳者を対象に、日本の作家との交流やワークショップ、日本の図書や文学に関する講義のほか、文学館や地方(岩手県)への訪問を行いました。翻訳についての実践的な知見や日本の図書に関する最新の情報を得る機会を創出し、参加者の中には、帰国後新たな作品の翻訳に取り組んでいる人もいます。



石橋財団・国際交流基金現代美術キュレーター等交流事業 市原湖畔美術館「かみがつくる宇宙—ミクロとマクロの往還」展訪問の様子



トルコ日本文学翻訳者招へい  
こども本の森 遠野訪問

## 日 ASEAN 映画プログラマー交流事業

「次世代共創パートナーシップ文化の WA2.0ー」の一環として、ASEANと日本の映画プログラマーが東京でワークショップやネットワーキングを行い、その成果として ASEAN各地で上映会を実施するプログラムを2024年度に新たに開始しました。ASEANでの上映の第一弾としてマレーシアの参加者が自国で上映会を開催し、多くの観客を集めました。本事業を通じ、ASEANと日本において上映専門家・映画関係者のネットワークを育み、多様な映画の上映を実現する契機を創出していきます。



マレーシアでの上映会における『幻の光』上映後の  
是枝裕和監督とのオンラインQ&Aの様子



東京でのワークショップ

## 日本映画等映像コンテンツ配信プラットフォーム「JFF Theater」

日本の映画や映像コンテンツをいつでも無料で見ることができる全世界向けの配信プラットフォーム「JFF Theater」を2024年8月に開設しました。ウェブサイトの表示は17言語、字幕は最大18言語を付与しています。2025年3月までに、配信作品は22作品、のべ視聴者数は約7.6万人、再生回数は約11.6万回となり、世界の多くの方に日本の映像コンテンツ、そして日本文化に触れる機会を創出しました。世界中のファンから熱い視聴コメントが届いています。



「JFF Theater」キービジュアル



パリ日本文化会館における「怪獣映画特集 1954-2024」の模様



マル・デル・プラタ国際映画祭  
(アルゼンチン)における西川美和監督の対談イベントの様子

## 世界各地での日本映画上映

81か国・地域において日本映画上映会を開催し、約24万人の観客に日本映画を届けました。フランスでは「怪獣映画特集 1954-2024」が開催され、「怪獣映画」の歴史を振り返りました。アルゼンチンではマル・デル・プラタ国際映画祭で「成瀬巳喜男監督特集及び日本映画上映会」が開催され、『ディア・ドクター』と『すばらしき世界』が上映された西川美和監督と同映画祭のホルヘ・スタマディアノスアート・ディレクターとの対談が行われました。

また、ASEAN・インド・オーストラリアの計10か国で日本映画祭(JFF)を開催し、のべ10万人以上が来場。ベトナムには映画『カラオケ行こ!』の山下敦弘監督を派遣し、上映会場とハノイ映画演劇大学でトークを実施しました。



ベトナム日本映画祭にて、山下敦弘監督サイン会の様子

## オンライン日本映画祭2024

27か国・地域に対し、25作品(映画23作品、TVドラマ2作品・計20話)を、15言語16種類の字幕を付与し、1か月にわたり配信を行いました。作品の配信だけではなく、監督等によるメッセージ動画の配信や、作品関係者へのインタビュー記事も多言語で発信、また今回初の試みとなる、配信作品をスクリーン投影する対面型上映会の実施や、上映作品に関連したオンラインイベントも実施しました。のべ視聴者数は約29.9万人、再生回数は約54.8万回に及びました。



シンガポールにて現地日本研究者による文学作品と  
その映画化の関係に関する講演・Q&A

# Language 言語

## 海外における日本語教育

世界のより多くの人々に日本語を学ぶ機会を提供し、  
各国の日本語教育が自立的・継続的に  
発展していくための取り組みを行っています。  
多文化共生社会の実現といった、  
時代の要請に対応する取り組みの充実にも  
努めています。



J-LEAP12、13期現地研修(米国)



年賀状を初めて書く日本語学習者(トルクメニスタン)



ヤンゴン日本文化センターで学習者向けに毎月  
開催されている「すらすら多読会」(ミャンマー)

# 海外の日本語教育環境の整備

海外において質が高く安定した日本語教育が広く実施されるよう、各国・各地域の状況を踏まえつつ、現地の行政機関や主要な日本語教育機関と連携して主に次の事業を行い、各地の日本語教育環境の整備を進めました。

## 日本語専門家の海外派遣

JF 海外事務所や海外の教育省、大学等の教育機関に日本語教育の専門家や指導助手、若手日本語教員を派遣し(39か国128ポスト)、日本語講座の実施、現地日本語教師への研修、教材作成・日本語教授法等の助言、教師間ネットワーク形成支援、教育機関への巡回指導、日本語講座等を実施しました。  
オンラインでの授業や研修も定着し、幅広い地域や対象に向けた効果的な活動を行うとともに、AIの活用など新しいテーマにも積極的に取り組んでいます。



日本と北マケドニアの外交関係樹立30周年を記念して、日本語上級専門家が現地に赴き文化体験として全員で「平和の象徴」折り鶴に挑戦(北マケドニア)

## 日本語教育機関支援

JFにほんごネットワーク(さくらネットワーク)メンバーや世界各国の日本語教育機関が実施する、日本語講座運営、教材購入・制作、弁論大会、日本語教育セミナー、シンポジウム等の日本語普及活動に対して助成を行いました。  
※「さくらネットワーク」メンバーは、各国の中核的日本語教育機関・団体。2024年度末現在100か国・地域356機関



日トルコ外交関係樹立100周年を記念した日本語弁論コンテストが行われ、市民が日本語と日本文化に関心を持つ契機となった(トルコ)



学生の日本語理解を深め、教師・学習者間の連携を強化する日本語セミナーが開催され、全国から2000人近くが来場した(スリランカ)

## 海外の日本語教師に対する研修

海外で日本語教育を担う人材の育成とスキルアップを目的とした日本語教師研修を日本国内及び各国・地域で実施し、約14500人が参加しました。日本語国際センターでは54か国・地域から400名以上を招へいし、日本語・教授法・日本文化についての研修を実施しました。また、日本語学習プラットフォーム「みなと」上で「日本語教師向けオンライン自習コース」を開講し、43か国・地域から約900名が受講・修了しました。



海外日本語教師研修の文化体験の様子(日本語国際センター)

## 海外の学習者へ向けた学習機会の提供

各国の外交官・公務員や日本研究者等を招へいし、職務や研究に役立つ専門日本語の研修を行ったほか、日本語学習者等の訪日研修を実施しました。日本語能力の向上だけでなく、協力機関との交流や各種文化体験を通じ、参加者の総合的な日本理解を深めることを目的としています。



関西国際センターで授業を受ける外交官・公務員研修参加者



東京スカイツリーを訪問する各国成績優秀者研修参加者

## 海外に在留する邦人の子などに対する日本語教育

日本語国際センターでは、「日本につながる子どものための教材収集・共有プロジェクト」訪日ミーティングを実施し、国・地域を越えて活用できる現場の授業実践例と共有方法を検討しました。  
メキシコ日本文化センターでは、子どもの日本語学習や家庭間交流のための「日本につながる家族のための航空教室」を開催しました。



日本につながる家族のための航空教室(メキシコ日本文化センター)

## ラオス中等教育用日本語教科書完成式典

2024年12月、ラオスの中等教育で使用する日本語教科書シリーズ(全7巻)の完成記念式典が開催されました。式典にはラオス教育スポーツ副大臣らが出席し、国際交流基金が派遣した日本語専門家を含む関係者の尽力に敬意を表しました。国際交流基金は2016年から2024年にかけてラオス教育スポーツ省教育科学研究所(RIES)へ日本語専門家を派遣し、ラオス中等教育の発展に協力しました。



完成した中等教育向け日本語教科書・指導書全7巻(ラオス)

# 日本語パートナーズ派遣事業

## 年齢も経歴も多様な人々が、 生きた日本語を伝え、学びあう

日本語パートナーズ(NP)は、アジアの中等教育機関等で、日本語授業のアシスタントや日本文化の紹介を行う存在です。2024年度は、ASEAN9か国と中国、台湾、インドに325名のNPを派遣。2014年の事業開始以来、延べ3483人が派遣され、現地の日本語学習者や教師の日本に対する関心を高め、日本語教育の発展に貢献してきました。



派遣先で日本語授業のアシスタントを行う日本語パートナーズ(ベトナム)

## 日本語パートナーズカウンターパート訪日研修(高校生/大学生)

日本語教師対象 日本語国際センター実施

日本語パートナーズを多数派遣しているインドネシア、タイから中等教育機関の日本語教師計66名を招へいし、研修を実施しました。授業では、日本語パートナーズとのチームティーチングの方法や日本文化紹介の授業方法について学び、また、日本についての理解を深めるために学校訪問や文化体験を行いました。



高校に訪問し、生徒と交流の様子

高校生・大学生対象 関西国際センター実施

日本語パートナーズが派遣されているASEANを中心とする国及び地域から、日本語を履修している大学生や高校生約100名を招へいしました。日本語学習や文化体験、日本人学生との交流に加え、SDGsやウェルビーイングといった世界共通のテーマについての議論を通じ、グローバル人材としての素養を高めることを目的としています。



授業を受ける学習者訪日研修(高校生)参加者

# 海外における日本語教授法及び 日本語学習者の能力評価の充実

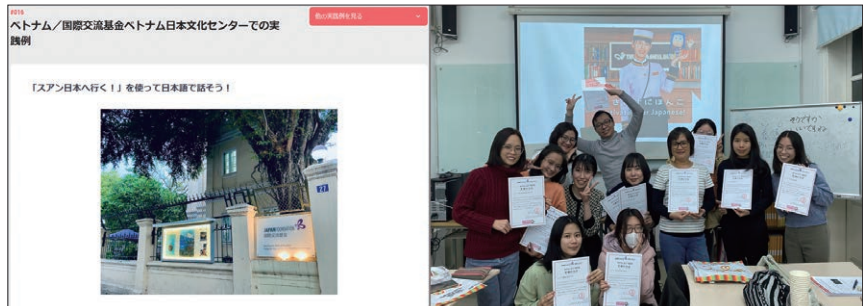
日本語普及のため、新たな教授法や学習素材の提供、日本語学習者のための日本語能力試験（JLPT）及び外国人材受入れのための国際交流基金日本語基礎テスト（JFT-Basic）の実施、日本語教育に関する調査等の事業を行いました。

## 日本語教授法に関する情報発信と学習素材の提供

「JF 日本語教育スタンダード」（JFS）は、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）の考え方に基づいて JF が開発した、日本語の学び方、教え方、評価の仕方を考えるための枠組みです。JF は学習者の特徴や学習の目的に合わせた準拠教材を作成し、多言語化を含め更なる充実を図っています。2024年度は、『いろいろ 生活の日本語』では教師向けセミナー動画の掲載、ウェブサイト「ひきだすにほんご Activate Your Japanese! コンテンツライブラリー」では「ひきだすにほんご」を活用した実例の共有コーナーなど、コンテンツの拡充を進めました。



『いろいろ 生活の日本語』の  
教師向けセミナー動画を新たに掲載



「ひきだすにほんご Activate Your Japanese! コンテンツライブラリー」では世界各地の授業やセミナーで「ひきだすにほんご」を活用した事例を紹介

教材作成のための素材・アイデアや授業に役立つ情報を提供する、日本語教師のためのウェブサイト「みんなの教材サイト」に、新規コンテンツ「Learn Japanese from the News ダイアログ教材」を追加しました。この教材は、NHK ワールド JAPAN で放送されている日本語学習番組「Learn Japanese from the News」の関連コンテンツとして番組ウェブサイトで公開されたもののうち、JF が作成した48のダイアログ教材を一部編集したものです。



「みんなの教材サイト」に掲載されている  
「Learn Japanese from the Newsダイアログ教材」ページ

## eラーニングの開発・運営

日本語学習プラットフォーム「JF にほんご eラーニング みなと」の年間受講者数は190か国・地域の約17.7万人に上り、累計登録者数は203か国・地域の約51万人を記録しました。手塚治虫氏の代表作品『ブラック・ジャック』を教材に活用した「アニメ・マンガの日本語（ブラック・ジャック）コース」の開講等を通じ、オンラインコースを用いた日本語学習への多様なニーズに応えました。

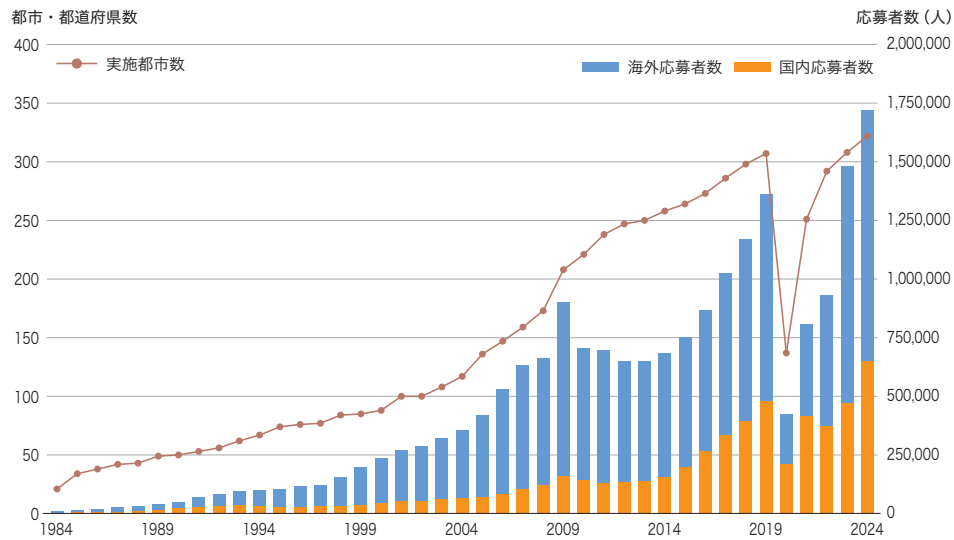


マンガ『ブラック・ジャック』を用いた「アニメ・マンガの日本語 B1B2（ブラック・ジャック）自習コース」  
（マンガ：©手塚プロダクション）

## 日本語能力評価のための試験の実施

日本語能力試験（JLPT）は、日本語を母語としない日本語学習者を対象として 1984年から実施されている世界最大規模の試験です。2024年においては、国内外合わせて過去最高の約172万人の応募がありました。7月試験では新規実施国としてはヨルダン（実施都市：アンマン）、加えて新規実施都市としてはナント（フランス）、ニュー・ボルグ・エル・アラブ（エジプト）で実施し、海外60か国175都市で約50万人が応募、約41万人が受験しました。12月試験では新規実施国としてはセネガル（実施都市：ダカール）、加えて新規実施都市としてはミドルベリー（アメリカ）、フロリアノポリス（ブラジル）で実施し、海外81か国246都市で約56万人が応募、約45万人が受験しました。

### 日本語能力試験（JLPT）応募者数の推移（1984年～2024年）



2024年度より新規に実施されたダカール（セネガル）での日本語能力試験（JLPT）

国際交流基金日本語基礎テスト（JFT-Basic）は、主に就労のために来日する外国人が遭遇する、生活場面でのコミュニケーションに必要な日本語能力の測定を目的としたコンピューターテストで、2019年に開始しました。2024年度は、マナド（インドネシア）、グワハティ（インド）、ボカラ（ネパール）に新規会場を設置、アジアを中心とする11か国24都市及び日本国内で約16.7万人（前年度約10.3万人）が受験しました。



機関を訪問し『いろいろ』の使い方を説明する  
生活日本語コーディネーター（ミャンマー）

## 外国人材受入れのための日本語教育事業

日本での生活・就労を目指す人々の日本語能力習得を支援する取り組みをアジア中心に15か国で実施しました。ウェブ教材『いろいろ 生活の日本語』は新たに3言語を加え計20言語となり、年間約550万件のアクセスがありました。また、同教材をもとに開発した「いろいろ日本語オンラインコース」は、入門（A1）、初級1・初級2（A2）コースのベンガル語、ラオス語版を新たに公開しました。各国では、日本語専門家と生活日本語コーディネーターが『いろいろ』の紹介や『いろいろ』教授法セミナー等を行いました。



書道にチャレンジするイベント参加者

## ウクライナ「日本の秋」で日本語体験

戦禍が続くウクライナの日本センターで、「日本の秋」と題したフェスティバルが開催されました。のべ6000人が参加し、日本語体験講座、映画上映会、武道デモンストレーション、展覧会、カラオケ、コスプレショー等で大いに盛り上がりました。戦争という状況下でも日本文化への興味が衰えていないどころかますます高まっている様子が伺われました。

## 旧大正小学校開校110周年記念イベント

ブラジル政府に正式認可された最初の日系教育機関「大正小学校」の創立110周年を記念し、サンパウロ日本文化センターは関係機関と合同で「旧大正小学校開校110周年実行委員会」を立ち上げました。日本語関連イベントの第1弾として日本語教育フォーラムと継承語シンポジウムを開催し、日本語教育功労者への顕彰式も行いました。



サンパウロ日本文化センター長から日本語教育功労者への顕彰

# Dialogue 対話

## 日本研究・国際対話

海外における日本研究への支援や世界との対話に  
持続的に取り組むことにより、相互理解と信頼を深め、  
共通課題の解決に向けたグローバルな協働や  
人的ネットワークの形成を推進しています。



JSA-ASEAN 巡回講義@ラオス

東南アジア日本研究学会(JSA-ASEAN)の協力のもと、ラオス国立大学の主催による、ASEAN域内の日本研究者を招いた2日間の講義及びワークショップの開催を支援。日-ASEAN 関係や日本文化に関する講義のほか、ASEAN域内の若手日本研究者及びラオスの研究者・実務家による発表、交流セッションを通じ、日本研究学科を有する高等教育機関のないラオスにおいて、研究者・学生に日本研究に触れる機会を提供しました。



## 海外の日本研究

海外における日本理解促進のため、各国・地域の日本研究を支援するとともに、国内外の研究者及び研究機関のネットワーク形成・強化を図る事業を実施しています。

### 日本研究者への支援

海外において日本に関わる研究を行う学者・研究者を招へいする「日本研究フェローシップ」では、2024年度は新たに84名にフェローシップを供与し、前年度から継続する48名と合わせて計132名のフェローに対し、訪日研究の機会を提供しました。また、国内の他機関との連携により、フェロー・カンファレンスや発表・交流会など、フェローの新たなネットワーク形成に向けた事業も実施しました。



国際日本文化研究センターにて開催されたイベント

### 日本研究フェロー・カンファレンス 2024@日本

JF が招へいし日本で研究活動を行っている日本研究フェローを中心としたネットワーク・イベントとして、2024年11月に東京大学東洋文化研究所(東京)にて、また同年12月に国際日本文化研究センター(京都)にて、それぞれカンファレンスを開催し、国内外の研究者のネットワーク形成・強化を図りました。

### 日本研究機関への支援

各国・地域の日本研究機関への支援を通じ、海外における日本研究の長期的な発展・拡大を図っています。



### 日本研究シンポジウム@エジプト

カイロ大学文学部日本語日文学科創設50周年を記念したシンポジウム「非西欧社会における近代化の再考：日本(東アジア)とエジプト(アラブ)の場合Ⅲ」開催を支援。コロナ後初となるアラブ圏の日本研究者が一堂に会し、ネットワークの再構築と強化の機会となりました。またシンポジウム後、共催した国際日本文化研究センターとの間で学術協定が締結されることとなるなど、カイロ大学において学術・人物交流が一層進むことが期待されています。



### 日本資料専門家欧州協会第34回年次大会@ブルガリア

2024年9月にソフィア大学(ブルガリア)で開催された日本資料専門家欧州協会(EAJRS)の第34回年次大会を支援。日本におけるデジタル・ヒューマニティーズ、デジタル・アーカイブを活用した人文学研究の推進、AI技術によるデータベースの高度利用等について議論が行われ、AI技術の開発・応用が目覚ましい状況の中、国・地域を越えたグローバルな知識の拡充と相互理解の促進につながりうるものとなりました。

### 日本研究ネットワークの強化に向けた支援

日本研究に関わる研究者や知日層及び関連機関を横断的に結び付け、ネットワーク化を図ることにより、海外における日本研究の振興に寄与することを目指しています。



### 南アジア日本研究学会国際会議@インド

2023年に発足した南アジア日本研究学会(JSASA)による初の対面の国際会議として、2024年9月にジャワハル・ネルー大学東アジア研究所が主催した国際会議を支援。会議当日は、インド、バングラデシュのほか、ネパールやスリランカからも研究者が参加し、インド要人も参加した開幕セッション、基調講演に続き、分科会では30名超の若手研究者が発表し、南アジア地域の若手研究者にとって貴重な発信とネットワークの場となりました。

# 国際対話・ネットワーク形成の推進

国際シンポジウム・セミナー・ワークショップ等を通じ、グローバルな共通課題についての対話と人的ネットワークの構築に取り組むとともに、新たな価値の創造・共有を目指した先駆的な対話事業にも取り組んでいます。また、将来の交流の礎となる市民・青少年の交流事業や人材育成事業を実施しています。

## 重要外交周年の機を捉えた国際対話事業

「日・カリブ交流年2024」の機会に、障害者の社会参加・社会包摂について「柔道」を切り口に考える国際対話事業を実施しました。柔道男子日本代表監督の鈴木桂治氏と、日本視覚障害者柔道連盟会長の初瀬勇輔氏をジャマイカとバルバドスに派遣。柔道・パラ柔道の体験デモやパネル・ディスカッション、レクチャーを通じ、障害者のスポーツ・アクセシビリティや障害者スポーツの歴史、政策等についてそれぞれの知見や事例を紹介し合い、活発な議論を展開しました。

「日・トルコ外交関係樹立100周年」の節目には、両国の笑いの実演家・研究者等を招き、「笑い」や「ユーモア」が果たす社会的な役割を考える実演付きの対話事業を行い、好評を博しました。



## 米国知識人招へい事業

米大統領選が行われ米国の政治動向や日米関係の将来への関心が高まる中、米国において政策・思想形成の役割を担う知識人を招へいし、現代アメリカ社会の状況について紹介するとともに、日米知識人のネットワーク構築を行うことを目的として、若手論者のオレン・キャス氏（アメリカン・コンパス設立者）を招へい。日本の省庁関係者や多様な分野の研究者との面談、一般公開シンポジウムや記者会見等を実施しました。

## インド太平洋パートナーシップ(JFIPP)ネットワーク・フェローシップ



インド太平洋地域におけるネットワーキングと知見の共有を目的として、共通課題に取り組む若手・中堅の専門家に研修と交流の機会を提供するプログラム。2年目の2024年度は、日本、米国、豪州、東南アジアや南アジア、島嶼国を含む計23か国から選ばれた31名のフェローで構成された、「防災」と「気候変動」をテーマとする2つのグループが、各3地域での対面研修に参加し、将来の地域協力を推進する長期的な協力関係を構築しました。



## 日中市民・青少年交流事業

2024年度も引き続き、若者間、草の根レベルでの日中交流事業に取り組みました。中国の高校生を約10か月間日本の高校に受け入れる「心連心」中国高校生長期招へい事業では、新たに第16期生12名が来日。2006年以降のプログラム卒業生数は450名を超えました。また、中国の地方都市15か所に設置した日中交流拠点「ふれあいの場」では、日本の最新情報を提供するとともに、折々に日本文化セミナー等を実施し、年度総計1万8000人以上の参加者を得ました。その他、大学生交流事業や高校生同士のオンライン交流事業等も行っています。

## 日米草の根交流コーディネーター派遣(JOI)プログラム

米国との間でも草の根交流に継続的に取り組んでいます。日本との接点比較が少ない、米国南部・中西部・山岳部地域各地の大学や日本協会等に、任期2年のボランティアを派遣。草の根交流コーディネーターとして、現地に溶け込んで生活を送りつつ、日本文化紹介や学校授業支援、地域の祭り等に参加してもらいます。2024年度は、前年度、前々年度に派遣されて活動中の18名に加え、新たに7名を派遣しました。



## 次世代共創パートナーシップ ―文化の WA 2.0―：文芸対話プロジェクト「YOMU」

文学界における新たなネットワークの形成と、文芸を通じて多様な文化や価値観の理解促進を目指すプログラム。2024年度は、フィリピンの詩人、パオロ・ティアウサス氏と、インドネシアのクィア作家、ノーマン・エリクソン・パサリブ氏の2名を招へいし、一般公開トークセッションを実施しました。参加者より、「普段読む機会が限られるアジア地域の作家を知る貴重な機会になった」といった反響を得ました。ティアウサス氏は、その直前の1か月間、国際交流基金 ASEAN 文芸フェローとして京都文学レジデンシーにも参加し、日本や他国の作家らと共にリサーチや創作活動に従事しました。



## 次世代共創パートナーシップ ―文化の WA 2.0―：JF 東南アジアパートナーシップ(JFSEAP)事業

東南アジア各国との知的対話・人的交流のプログラムを新たに立ち上げました。ASEAN各国の若手研究者・専門家を対象とした「ASEAN 次世代専門家グループ招へい」、日本国内のパートナーと共同で次世代の研究者等を招へいする「客員フェローシップ」、日 ASEANの共通課題の解決に取り組むプロジェクトを対象にした「日 ASEANグローバル・パートナーシップ強化助成」から成るプログラムです。2024年度のグループ招へい事業には8名が参加し、参加者による訪日レポートを公開しました。



## 次世代共創パートナーシップ ―文化の WA 2.0―：日 ASEAN中高教員交流事業



ASEAN諸国から中学・高校の先生方をグループで招へいするプログラムを新設しました。初年度の2024年度は、8か国から計55名の校長、社会科教員、教育省関係者等が来日。東京、大分、徳島の日本の小・中・高等学校の教育現場で視察・交流を行ったほか、日本のSDGs実現に向けた取り組みや伝統文化にも触れてもらいました。教師の経験を通じて、ASEAN諸国の子どもたちが日本に関心を広げ、理解を深めてくれることが期待されます。

国際交流基金賞

学術、芸術その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があり、引き続き活躍が期待される個人・団体へ国際交流基金賞を授与しています。51回目となる 2024年度は、60件の中から、3件の受賞者を決定しました。

2024年度国際交流基金賞の受賞者・団体及び授賞理由

塩田 千春（美術家）【日本】

ベルリンを拠点に活躍する国際的な美術作家で「生と死」といった根源的テーマで作品を展開している。1997年ドイツ留学時の身体を素材とした作品が作家としての起点となる。2001年横浜トリエンナーレでの泥のついた巨大なドレスの作品や、2002年のルツェルン美術館で 30 台のベッドを用いた「生と死」を暗示する作品が驚きを持って迎えられ、2015年のヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展での数万本の鍵を圧倒的な量の赤い糸で結びつけた作品は、視覚的インパクトと人々の願いや記憶が一体化した作品として高く評価された。その活動は国際交流の実践であり、女性の国際的な活躍を促進する原動力ともなった。こうした顕著な業績により国際文化交流に大きく貢献している。



Chiharu Shiota  
Berlin, 2023  
Photo by Sunhi Mang

モンゴル日本語教師会【モンゴル】

モンゴル全土の日本語教育の発展と普及に大きく貢献してきた。1975年のモンゴル国立大学文学部日本語コースの開設を皮切りに、日本語教育は初等から高等教育機関まで普及している。1993年に設立された同会は、受賞時に 363名の会員を擁し、現地の日本関係機関などと協力して日本語スピーチコンテストや日本語教育シンポジウムを開催している。また、2000年からは日本語能力試験の実施機関として活動し、「JF 日本語教育スタンダード」、そのスタンダードに基づく初中等教育向けの教材『できるモン』の開発や普及にも力を入れている。毎年多彩な日本語教育関連行事を実施し、日本語教育の質向上に尽力し、国際相互理解の促進に貢献している。



セインズベリー日本藝術研究所【英国】

ロバート・セインズベリー卿ご夫妻の資金援助により、1999年に設立された日本の藝術・文化に関する調査・出版・交流のための研究機関であり、現在ではこの分野に関する欧州最大の研究機関の一つにまで発展している。本研究所にはフェローと日本を含む世界からの客員研究員がこれまで多く在籍し、設立以来90名を超える。イースト・アングリア大学との教育連携により、学際日本学修士課程も設置している。図書館の史資料も 5万冊以上あり、現在これらのデジタル化を進めている。近年では考古学やマンガ・アニメなどにも関心領域を広げる柔軟性を示すなど、今後も欧州における日本研究の中心機関としての活躍が期待される。こうした国際文化交流への貢献を評価した。



地球市民賞

日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、互いの知恵やアイデア、情報を交換し、ともに考える先進的で独自性のある活動に取り組む日本国内の団体を顕彰しています。40回目となる2024年度は3団体が選出されました。授賞式及びレセプションには高円宮妃殿下のご臨席を賜りました。

2024年度地球市民賞の受賞団体及び授賞理由

東九条マダン実行委員会

東九条マダン実行委員会は、1993年の初開催以降毎年京都市南区東九条で開催されているまつり「東九条マダン」の主催団体。立場・ルーツ・文化などの面で多様性に富んだ人々が一年に1度、集い、つながり、自己を表現するまつり「東九条マダン」は多文化共生のひとつのあり方を体現しており、中でも和太鼓と朝鮮半島の伝統的な打楽器が融合した演目は参加者に感動を与え、異なる文化が対話しあうことの重要性を示し続けている。活動の拠点である京都市南区東九条地域に根差すことを常に重視し、絆を深めてきた同実行委員会が、今後も地域・社会に対して有意義な経験を地道に提供し、国際的な市民社会の発展に寄与することを期待される。



画像提供:東九条マダン実行委員会

公益財団法人 佐賀県国際交流協会

佐賀県国際交流協会は 1990年設立以来、長年にわたり国際交流を促進してきた。近年は国際交流活動で培われた知見を生かしつつ、県内外国人住民の増加を背景に多文化共生をテーマに活動をシフトし、高い専門知識や倫理意識が求められる医療通訳や災害時の多言語支援でも高い成果を上げている。2019年には「さが多文化共生センター」を開設し、外国人・日本人双方の相対対応を行うなど、佐賀県における多文化共生推進に欠かせない存在。「心の国境をなくそう！」をスローガンに地域社会と連携し、外国人の急増に対応しながら共生社会を推進する同協会の姿勢は、他地域の模範となる取り組みである。



特定非営利活動法人 MIYAZAKI C-DANCE CENTER

2006年に宮崎大学教育文化学部舞踊学研究室で結成されたダンスカンパニー「んまつー波斯」(スポーツマンの逆さ読み)が運営する MIYAZAKI C-DANCE CENTER は、国内外での創作上演とともに、地域に創造的でユニークな身体活動とダンス体験を提供。宮崎で国際ダンスフェスティバルを開催し、地元住民と海外アーティストとの交流の機会をつくっている。学校の身体表現教育も支援し、子どもや教員に大好評のプログラムは国境も超えた。2019年には保育園の体育館兼劇場「透明体育館きらきら／国際こども・せいねん劇場みやざき」を開設。創造活動と経営、地域貢献と国際交流を明るく両立する地球市民活動は大いに示唆に富む。



# 2024 海外事務所の取り組み



JFは、25か国に26の海外事務所(2025年3月31日時点)を設け、地域・国別事業方針のもと、各国・地域の状況に合わせ、「文化芸術交流」、「日本語教育」、「日本研究・国際対話」の各分野でさまざまな活動を展開しています。各事務所による活動報告をご紹介します。

## 1 イタリア ローマ 日本文化会館

### 辰巳満次郎氏、野村萬斎氏ほかによる能狂言公演

重要無形文化財保持者である辰巳満次郎氏、野村萬斎氏ほか計6名による能狂言の公演及び来場者参加型レクチャーデモンストレーションを2日間実施し約400名の来場者を得ました。公演に先立ち、事業来場者が能狂言における表現方法を公演団と一緒に体験するなど来場者参加型にすることで、公演そのもののみならず、能と狂言の歴史やそれぞれの違い、鑑賞の仕方などの背景もあわせて堪能できる事業として来場者を魅了しました。



## 2 ドイツ ケルン 日本文化会館

### 能・狂言の魅力を紹介

2025年2月、和泉流狂言師の野村太郎氏、観世流シテ方の観世三郎太氏らを会館に迎え、当館所蔵の能舞台を活用した「能・狂言公演」を実施しました。観客の理解を助けるため、能や狂言の表現様式について観客参加型のワークショップを実施した後、狂言「奈須与市語」、半能「船弁慶」を上演。2日間で日本文化ファンや日本語学習者など計414名を動員しました。本事業は計画段階から巡回先のローマ及びパリの会館と緊密に連携し、事務作業の効率化を図りました。



## 3 フランス パリ 日本文化会館

### パリ五輪における「Team Japan House」

7～8月のパリ・オリンピック期間中、当館は日本オリンピック委員会(JOC)が運営する「Team Japan House」として連日フル稼働しました。日本選手団の活躍ぶりの発信、メダリスト記者会見、東京大会レガシーの展示、書道・折り紙等の日本文化体験など、館内各スペースの特性を生かした多彩なメニューにより、期間中来館者約2万人を記録。当館はこのセンターの運営に全面的に協力し、五輪における日本の存在感向上に貢献しました。



## 4 韓国 ソウル 日本文化センター

### 2024 ひらがなカタカナデザインコンテスト

ソウル日本文化センターでは、韓国の中学生・高校生及び青少年(満14～18歳)を対象に、日本語の文字(ひらがな、カタカナ)をモチーフに創作したデザインコンテストを在韓国日本大使館と共催で実施しており、10回目の節目となる2024年は過去最多の4557件の応募がありました。授賞式には、受賞者が韓国各地から家族と共に参加してくれ、ご後援、ご協賛くださった各機関の皆様との交流の場となりました。



## 5 中国 北京 日本文化センター

### 時空を超えて音を紡ぐー古典楽器・笙が繋ぐ日中文化交流

国際交流基金賞受賞者の宮田まゆみ氏、関西大学文学部教授の長谷部剛氏を招へいし、中国から日本に渡った楽器「笙」をテーマに中国北京において各種交流イベントを実施。在中国日本国大使館で実施した演奏交流会では、中国人笙演奏者の呉彤氏との対談、実演(合奏含む)を行いました。来場者からは日中で共通する文化とその進化の違いを肌で感じる事ができたとの反響がありました。



## 6 インドネシア ジャカルタ 日本文化センター

### 『にほんご☆キラキラ』セミナー

ジャカルタ日本文化センターが作成した国家カリキュラム準拠の高校日本語教科書『にほんご☆キラキラ』に関するセミナーを2025年2月にパプア地域で開催しました。本セミナーには13名の日本語教師が参加し、『にほんご☆キラキラ』の内容や教え方についての理解を深めてもらう有意義な機会となりました。パプア地域へは2019年度以来5年ぶりの訪問となり、同地の日本語教育の現状についてより詳しく把握することができました。



7 タイ  
バンコク  
日本文化センター

妖怪書画レクデモ&ワークショップ

妖怪書家 逢香氏を招へいし、ブリラム県、スリン県の日本語パートナーズ派遣校4校で妖怪に関するレクチャー、妖怪書画のデモンストレーション、及び墨絵のワークショップを開催しました。本企画は、同年開催した海外巡回展「妖怪大行進」の好評を受け、妖怪テーマで継続企画したものでした。墨と筆を扱うことが初めての学生も多かったですが、オリジナルの妖怪キャラクターを描くなど、意欲的そして創造力豊かに取り組んでいました。



8 フィリピン  
マニラ  
日本文化センター

マグサイサイ賞受賞特別上映会：  
スタジオ・ジブリウィークエンド

2024年度マグサイサイ賞を宮崎駿監督が受賞することを受けて、授賞式の前日にスタジオジブリの代表者及びマグサイサイ賞財団の関係者を招いたオープニングイベントと、ジブリ作品の特別上映会を開催。その後、一般客向けのジブリ作品上映が週末の2日間にわたって行われ、会場は2000人を超える観客の熱気に包まれました。



9 マレーシア  
クアラルンプール  
日本文化センター

日本研究エッセイコンテストメンターシッププログラム

日本研究の認知促進と若手育成を目的に、マレーシア国内の大学学部生を対象としたエッセイコンテストを初めて実施。初回ながら20件以上の応募があり、優れた要約を作成した上位5名を選出してメンターシッププログラムを展開しました。各学生には所属大学とは異なる機関の日本研究専門家をメンターとしてマッチングし、助言を受けながら各自の関心に基づくテーマでエッセイを完成。執筆後は国内の日本研究者が集うシンポジウムで成果を発表しました。学生にとって専門的な視点や研究の方法論を実践的に学ぶ機会となり、日本研究への継続的な関心と将来的な進路形成にもつながる取り組みとなりました。



10 ミャンマー  
ヤンゴン  
日本文化センター

ミャンマーで日本文化に触れられる大型イベント復活！  
「キラキラ☆夏祭り」

日本に関わる複数の団体からの協力を得て、日本の夏祭りを体験できる「キラキラ☆夏祭り」を開催。当地では日本語学習者が急増し、日本への関心が高まる一方、日本関連の大型イベントがコロナ禍や政変等の影響により長らく実施されていませんでした。そのため、当日は会場が大混雑するほど多くの方が来場し、厳しい状況の中でも日本文化に触れて楽しむことができるイベントが復活したことに対する感謝と喜びの声をいただきました。



11 インド  
ニューデリー  
日本文化センター

日本アニメフェスティバル  
「Mela! Mela! Anime Japan!!」の開催

高まるアニメ熱に呼応してデリーのショッピングモールで開催された「Mela! Mela! Anime Japan!!」は、官民合同で作品上映、ステージ、観光・留学プロモーション、和食体験など、現代日本の多様な魅力を2日間にわたり紹介し、5万人近い来場を記録しました。JFはブース出展とJFF日本映画祭で参加し、ほぼすべての上映で満席を記録しました。



12 オーストラリア  
シドニー  
日本文化センター

全豪日本語教育シンポジウム

オーストラリアで唯一、全ての教育段階の日本語教育関係者が集まる全豪規模の日本語教育シンポジウム National Symposium on Japanese Language Education を6年ぶりにシドニーで開催しました。教育分野でのITを専門とするコンサルタントのJoe Dale氏を迎えた基調講演のほか、オーストラリアにおける日本語教育の展望に関するパネルディスカッション、32の発表セッションを行い、約180名の参加者が日頃の研究や実践を共有し、州や教育段階を越えたネットワーク構築の機会となりました。



13 カナダ  
トロント  
日本文化センター

「まるごと」モデル講座 祝10周年

2014年にトロント日本文化センターで正式に日本語講座を開始し、2024年に10年が経ちました。当初はA1レベル、13名の生徒から始動。以降徐々にレベルを増やし、「まるごと」教科書を全て網羅するA1からB1のコースに加えて、2024年には上級レベルの学習者を受け入れるB2コースを新設、全7レベルをオンラインで提供しています。これまでカナダ全国から累計1800名以上が受講。学習者支援に加えて、先生方の見学受け入れや実践報告などを通して、これからもカナダの日本語教育における「まるごと」や「JFスタンダード」の普及促進を進めていきます。



14 米国  
ニューヨーク  
日本文化センター

藤野可織と翻訳家ケンダル・ハイツマンの文学ツアーを実施

芥川賞作家の藤野可織氏の作品『爪と目』が英訳出版されたことに合わせ、同氏を米国に招へいし、中西部・東部の7か所の大学や書店を会場として、作者による朗読と作品を翻訳したケンダル・ハイツマン氏（アイオワ大学）とのトークイベントを実施しました。執筆時のインスピレーションの源や翻訳の難しさ等に関して両氏が対談を行った後に、日本文学や翻訳を学ぶ学生などから多くの質問が挙がり、活発な議論が行われました。



15 米国  
ロサンゼルス  
日本文化センター

伝統工芸を通じた異文化交流事業

京都を拠点とする竹工芸作家・小倉智恵美氏をアリゾナ州フェニックスの日本庭園に招へいし、柳を素材とする工芸品を製作するネイティブアメリカンアーティスト・Joshua Yazzie氏と3日間にわたりパネルディスカッション、デモンストレーション等の交流事業を実施しました。自然素材を用いたかご編みという共通の工芸を通じて、それぞれの文化や伝統における違いと共通点を見出し、相互理解を深める貴重な学びの機会となりました。



16 メキシコ  
メキシコ  
日本文化センター

MIKAGE PROJECT コンサート

日本の民謡を現代的に再構築する音楽ユニット・MIKAGE PROJECTのメキシコ公演を実施しました。セルバンティーノ国際芸術祭の公式プログラムとしてのグアナフアト公演に加え、レオンとメキシコシティで公演を開催。箏、尺八、三味線の躍動的な演奏に加え、メキシコシティでは現地アーティストとの共演も果たし、各地で多くの観客を魅了しました。伝統音楽が異文化と響き合う貴重な文化交流の場となりました。



17

ブラジル



サンパウロ

日本文化センター

花火の歴史を知る VR 映像の展開

2021年から、ブラジル各地の日本祭りなどで、日本文化に親しんでもらう VR 映像を展開してきました。第一弾はプラネタリウムと日本の音楽が融合した「Sky Bridge Experience」でしたが、それに続き、2024年から、「ハナビリウム」の展開も始めました。360°の夜空に広がる美しい映像と、日本の花火の歴史をポルトガル語吹替で紹介した学習的な側面も持つコンテンツとして、サルバドールなど計4都市で公開し、総視聴者数は3000人を超え、人気を博しました。



18

ペルー



リマ

日本文化センター

MIKAGE PROJECT ペルー公演

3人の実力派若手アーティストからなる和楽器ユニット「MIKAGE PROJECT」を招へいし、南米で最も古い歴史を有するオペラ劇場のリマ市立セグーラ劇場にてコンサートを実施。日本全国各地の民謡を現代の感覚で作編曲した楽曲やオリジナル曲だけでなく、ペルーで有名なクンビアのナンバー「エルサ」をカバーする等、幅広い多様性を持つ民謡の世界に魅了されました。ペルー日系人協会や日系校でも公演を行い、ソーラン節を観客と一緒に踊る民謡体験では会場が一体となり盛り上がりました。



19

英国



ロンドン

日本文化センター

落語・小噺イベントでの日本語学習者による小噺発表会

落語家の柳亭左龍師匠をお招きした落語・小噺イベント内で、日本語学習者総勢24名が出場する小噺発表会を開催しました。小噺とはオチのある短い噺のことで、小噺を活用した日本語学習は、反復練習により語彙や発音を身になじませ、想像力を発揮して役柄を演じ、発表を通して達成感の得られる、日本語力や年齢を問わない楽しい学習方法です。当日は多くの来場者が集まり、プロの落語はもちろん学習者の小噺でも会場は笑いの渦に包まれました。



20

スペイン

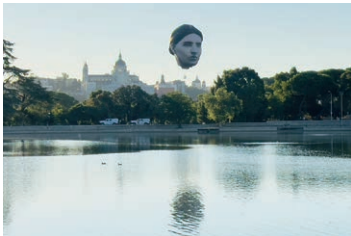


マドリード

日本文化センター

マドリード最大の芸術フェスティバルに参加

マドリード市内各地で毎年夏に開催される芸術フェスティバル、Veranos de la Villa。40回目の2024年は招待国に日本が選ばれ、JFは期間中同フェスティバルとの共催で複数の公演・プロジェクトを実施しました。現代アートチーム目[mé]によるインスタレーション作品は、市内の空高くに掲げられ市民の大きな関心を集めました。その他ダンスや舞踊の公演、展覧会などを通じ日本のアートの魅力と多様性をスペインの人々に知ってもらう機会となりました。



21

ハンガリー



ブタペスト

日本文化センター

日本 × ハンガリー 「笑い」を通じた国際対話イベント

落語家の真打として活躍する立川志の春氏と、ユーモアの研究で知られる大島希巳江教授をお招きし、日本とハンガリーの「笑い」をテーマにした対話イベントを開催。志の春氏による落語公演のほか、ハンガリーの著名なストーリーテラー、ベレーツ・アンドラーシュ氏によるパフォーマンス、さらには両国の笑いの文化について語る対談セッションを実施しました。軽妙なトークと掛け合いに、会場は大爆笑に包まれました。



22

ロシア



モスクワ

日本文化センター

文化交流の伝統を守ってーノボシビルスク

ノボシビルスクで実施された第2回国際日本語弁論大会に協力し、ノボシビルスク市立観光姉妹都市センター「シベリア・北海道」で、裏千家モスクワ支部による茶道ワークショップを実施しました。同センターは、1996年の創立以来約30年にわたってシベリアでの日本との文化交流の中心となって活動してきましたが、日本との交流が困難な現状において、長らく使用されてこなかった茶室・茶道具を活用することができました。



23

エジプト



カイロ

日本文化センター

カイロ大学日本語学科創設50周年記念シンポジウム

1974年カイロ大学文学部に、中東・アフリカ地域では初めての日本語専攻である、日本語日本文学科が誕生しました。2024年は学科創設50周年となることから、過去に同学科で教鞭をとっていた久山宗彦教授と小島康敬教授を招へいし、記念シンポジウムで基調講演を行いました。同シンポジウムでは、これまでの日本語教育、日本研究の足跡を振り返りつつ、今後の展望について議論が交わされました。



24

ベトナム



ベトナム

日本文化交流センター

ベトナムに響いた“和”の鼓動 BATI-HOLIC 公演

和太鼓ロックグループ BATI-HOLIC によるベトナム公演をハノイ及びホーチミン市にて開催。和太鼓と現代的な音楽表現を融合させたパフォーマンスを通じた日本文化の多様性と創造性の発信を目的として、一般市民向けの公演に加え、大使公邸での小規模公演も実施し、ベトナム文化における「伝統と革新」に関心を持つ政府関係者等に訴求しました。また、次世代を担う音楽分野の学生等を対象とした和太鼓ワークショップも行い、相互理解と交流の促進に貢献しました。



25

カンボジア



プノンペン

連絡事務所

若手映画製作人材育成

テレビドラマや映画の場で活躍する脚本家、渡邊真子氏を講師として招へいし、カンボジアの映像業界に従事する若手脚本家を対象に、6日間の集中講座を実施しました。参加希望者には事前に短編作品の脚本を提出してもらい、選抜された10名が参加しました。日本の脚本家に加え、カンボジア人の著名な脚本家やプロデューサーもサポート講師として迎え、基礎から応用まで幅広い内容の講座を行いました。



26

ラオス



ビエンチャン

連絡事務所

DigiCon6 ASIA- ラオスコンテスト

優れたコンテンツクリエイターの発掘を目的に、株式会社TBS テレビが日本を含むアジア15か国・地域を対象に行う「第26回DigiCon6 ASIA」のラオスにおける国内予選を実施しました。若手クリエイターから応募された14作品の中から選ばれた、上位3作品を日本での本選に送付しました。10月18日に東京都写真美術館で行われた入賞作品上映会では、ラオス国内予選で金賞を受賞した、シリユパー・ケオサワン氏の“The light”が上映されました。



## 2024年度事業実績 文化芸術交流

### 1 主催公演

- 日・トルコ外交関係樹立100周年記念  
山海塾『あわせ鏡のはざまてーうつし』公演・ワークショップ・講演(トルコ・イスタンブール)
- 日・トルコ外交関係樹立100周年事業  
大池容子氏(劇作家・演出家)とビルケント大学演劇学科との『かがやく都市』共同制作(トルコ・アンカラ)
- 次世代共創パートナーシップー文化の WA2.0ー  
松竹日本舞踊ラボ カンボジア公演～Phnom Penh KIZUNA ODORI  
ブノンベン絆おどり～(カンボジア・ブノンベン)
- 次世代共創パートナーシップー文化の WA2.0ー  
krage ラオス公演～Songs Beyond Borders: Japan & Laos Together ～  
(ラオス・ビエンチャン)
- 世代共創パートナーシップー文化の WA2.0ー  
ベトナム主催公演：Echoes Across Cultures ～Akatsuki Live in Hue ～  
(ベトナム・フエ)

### 2 舞台芸術国際共同制作

- タニノクロウ × フランス国立演劇センタージュヌヴィリエ劇場(フランス)  
『Maitre Obscur』(成果発表：フランス・パリ)
- 松本奈々子 × アンチャー・リン(チウス・タホス)(台湾)『KYOTO EXPERIMENT  
2024『ねばねばの手、ぬわれた山々』(成果発表：京都)
- KAAT×Vanishing Point (英国)『品川猿の告白 - Confessions of a  
Shinagawa Monkey』(成果発表：神奈川)
- 金山寿甲 × エス・リー (米国)『ワークインプログレス公演『K 演劇』  
(成果発表：東京)
- 音楽詩劇研究所(河崎純) × チョン・ウォンキ(韓国)『黒潮プロジェクト  
台湾 - 与那国 - 済州』そして魂と踊れ』『ユーラシアンオペラ Op.4 黒潮の子』  
(成果発表：沖縄、東京)
- 白神ももこ × ラタナコーン・インシシェンマイ(ラオス)『日本 × ラオス ろう者と  
聴者が協同するアジアのオブジェクトシアター『いのちあるもの 闇の中から/  
ລ້ງທັມລູຊິດ ຈາກຄວາມມືດ』(成果発表：神奈川)

### 3 日本祭り開催支援

- 全米桜祭り2025公演／清和文楽、熊谷和徳、Ka-Na(米国・ワシントンD.C.)
- 第40回 Veranos de la Villa フェスティバル 公演・作品発表／梅田宏明 +  
Somatic Field Project、現代アートチーム目[mé]、ARTE Y SOLERA・中  
村壱太郎(スペイン・マドリード)
- 第20回日韓交流おまつり 2024 in Seoul 公演／アバンギャルディ(韓国・ソウル)

### 4 海外派遣助成

- 助成実績：47か国、56件

### 5 国際展

- 第60回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展「Compose」(イタリア・ヴェネチア)

### 6 企画展

- 「丹下健三と隈研吾 東京大会の建築家たち」展(フランス・パリ)
- 「塩田千春：Between Worlds」展(トルコ・イスタンブール)

### 7 国際交流基金巡回展

- 15セット、46か国・地域65都市

### 8 海外展助成

- 13か国・地域22 都市、21件

### 9 欧米ミュージアム基盤整備支援

- 3か国 4 都市、4館

### 10 翻訳出版助成

- 31か国・地域、54件

### 11 専門家交流

- トルコ日本文学翻訳者招へい(7人)
- 柏葉幸子(作家)インドネシア派遣
- 舞台芸術専門家派遣事業(マレーシア・クアラルンプール、ベナン)(6人)
- 舞台芸術専門家派遣事業(シンガポール)(5人)
- 舞台芸術専門家招へい事業(神奈川)(欧米7か国、7人)
- 舞台芸術専門家招へい事業(神奈川)(ASEAN9か国、10人)
- 舞台芸術専門家派遣事業(タイ・バンコク)(4か国、6人)
- 石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流事業(5か国、15人)
- 石橋財団・国際交流基金 日本美術リサーチフェロシシップ(12か国、16人)

### 12 情報発信

- 翻訳推薦図書・児童図書リスト「Worth Sharing」、「Lifelong Favorites」  
(ウェブサイト・冊子)
- 「日本文学翻訳作品データベース」
- 「Bookmark\_JF」(文芸事業ポータルサイト)
- 第76 回フランクフルト国際図書館展を活用した翻訳出版分野情報発信  
(ドイツ・フランクフルト)
- 世界のバリアフリー児童図書館展(東京)
- 第18回日本国際漫画賞受賞者招聘(3か国、3人)
- 第62回(2025年)ポローニャ国際児童図書館展出展
- 日仏高校生交流アプリ「Nakamitié」
- 「バフォーミング・アーツ・ネットワーク・ジャパン(PANJ)」  
(舞台芸術ウェブサイト)
- 「STAGE BEYOND BORDERS」(舞台公演オンライン配信プロジェクト)
- 戯曲翻訳出版(1か国、1件)
- 「Doors to Arts of Japan」(美術・文化紹介映像ポータルサイト)
- 「ヴェネチア・ビエンナーレ日本館公式サイト」(特設ウェブサイト)
- 日本映画データベース(JFDB)
- 声囂劇読祭(Sound & Fury Play Reading Festival)『太陽』  
(作：前川知大)リーディング公演(中国・北京)

### 13 日本映画上映

- 81か国・地域で日本映画祭・上映会を実施
- オンライン日本映画祭2024 (27か国・地域で全25作品を配信)
- 日本映画等映像コンテンツ配信プラットフォーム「JFF Theater」  
(全世界対象、視聴実績国：165か国・地域)

### 14 テレビ番組紹介

- 19か国・地域で118番組

## 2024年度事業実績 海外における日本語教育

### 1「JF 日本語教育スタンダード」の活用推進

- 「JF 日本語教育スタンダード」(サイト)年間アクセス数：約48万2000件
- 「みんなの Can-do サイト」年間アクセス数：約53万2000件
- 「まるごと 日本のことばと文化」サポート教材・教師用リソース等コンテンツ拡大
- 「いるどり 生活の日本語」各国語版・セミナー動画等コンテンツ拡充
- 「ひきだすにほんご Activate Your Japanese! コンテンツライブラリー」  
(サイト)字幕言語・解説記事等コンテンツ拡充
- 国内外の各種オンラインセミナー・研修会等での情報提供

### 2 インターネットを活用した教育ツール

- 「JF にほんご e ラーニング みなと」年間受講者数：約17万7000人
- 「いるどり日本語オンラインコース」年間受講者数：約8万人
- 「みんなの教材サイト」年間アクセス数：約223万6000件
- 「まるごと 日本のことばと文化」(サイト)年間アクセス数：約506万9000件
- 「まるごと + (まるごとプラス)」年間アクセス数：約809万件
- 「いるどり 生活の日本語」(サイト)年間アクセス数：約549万5000件
- 「ひろがる もっといるんな日本と日本語」年間アクセス数：約42万件
- 「アニメ・マンガの日本語」年間アクセス数：約97万件
- 「NIHONGO e な(いいな)」年間アクセス数：約74万件
- 「日本語でケアナビ」年間アクセス数：約43万件
- 「ひきだすにほんご Activate Your Japanese! コンテンツライブラリー」  
(サイト)年間アクセス数：約48万2000件
- 「エリンが挑戦! にほんごできます。コンテンツライブラリー」(サイト)  
年間アクセス数：約125万7000件
- 「エリンと挑戦! にほんごテスト」(初學者向けアプリ)  
年間ダウンロード数：約1万2000件
- HIRAGANA Memory Hint (文字学習アプリ)年間ダウンロード数：約19万件
- KATAKANA Memory Hint (文字学習アプリ)年間ダウンロード数：約11万件
- KANJI Memory Hint 1,2,3 (文字学習アプリ)年間ダウンロード数：約17万件

### 3 日本語能力評価のための試験

- 日本語能力試験(JLPT)  
第1回試験(7月7日)：海外60か国・地域、175都市、受験者数41万4605人  
国内\*47都道府県、受験者数26万5848人  
第2 回試験(12月1日)：海外81か国・地域、246都市、受験者数45万6553人  
国内\*47都道府県、受験者数33万3983人  
\*日本国内での試験は、共催者である(公財)日本国際教育支援協会が実施
- 国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic)  
毎月実施(4月除く) 海外11か国、24都市、国内47都道府県  
受験者数16万6953人

### 4 日本語事業に関する調査、情報提供

- 「国際交流基金日本語教育論集」(年1回の発行)
- 「日本語教育通信」(月1回の更新)年間アクセス数：約48万件
- 「日本語教育 国・地域別情報」サイトの運営

### 5 海外事務所における日本語事業及び「JF にほんごネットワーク」(さくらネットワーク)

- 国際交流基金海外事務所及び日本人材開発センター日本語事業部門  
(日本センター)事業：28か国、310件
- 「さくらネットワーク」：100か国・地域、356機関
- 海外日本語教育機関支援(助成)：75か国・地域、418件

### 6 日本語専門家等の海外派遣

- 日本語上級専門家：16か国、29ポスト
- 日本語専門家：35か国72ポスト
- 日本語指導助手：12か国、15ポスト
- 米国若手日本語教員(J-LEAP)：1か国、12ポスト
- 生活日本語コーディネーター：4か国4ポスト

### 7 海外の教師を対象とした招へい研修

- 海外日本語教師研修  
● 基礎：27か国、41人
- 日本語：18か国、32人
- 教授法：31か国・地域、67人
- 大韓民国中等教育日本語教師研修：1か国、36人
- 中国中等学校日本語教師研修(訪日)：1か国、22人

- 特定技能制度による来日希望者のための日本語教授法研修：11か国、103人  
第1回(訪日)：9か国、32人  
第2回(訪日)：8か国、32人  
第3回(訪日)：8か国、30人  
オンライン：5か国、9人
- 大阪府クイーンズランド州日本語教師研修：1か国、5人
- 海外日本語教師オンライン研修「みなと」自習コース：43か国、892人(修了者数)

### 8 海外の学習者等を対象とした招へい研修

- 専門日本語研修  
● 2023年度 外交官・公務員研修(継続)：34か国、34人
- 2024年度 外交官・公務員研修(新規)：37か国、37人
- 文化・学術専門家研修6か月コース：8か国、10人
- 日本語学習者訪日研修  
● 各国成績優秀者研修：42か国、42人
- 李秀賢氏記念韓国青少年訪日研修：1か国、20人
- 日本語学習者訪日研修(大学生・大学院生)：10か国、10人

### 9 経済連携協定(EPA)関連日本語教育研修

- インドネシア及びフィリピンにおいて、看護師・介護福祉士候補者を対象に、  
日本語予備教育事業を6か月間実施
- EPA 研修：2か国、4件  
2023年度(継続) インドネシア：306人 フィリピン：222人  
2024年度(新規) インドネシア：317人 フィリピン：238人

### 10 受託研修

- 教師研修  
● 博報堂教育財団日本語教育プログラム第3 回日本研修：1か国、36人
- 博報堂教育財団第15回「日本語交流プログラム」海外教師研修：9か国10人
- 笹川平和財団 中国大学日本語教員上級研修：1か国、23人
- 韓国忠清南道教育庁受託研修：1か国、12人
- 日露青年交流センター高等教育日本語教師研修：1か国、9人
- ニュージーランド中等教育日本語教師研修：1か国、6人
- 学習者研修  
● 大阪ガス国際交流財団インドネシア大学生日本語研修：1か国、2人
- 大阪大学日本語専修短期研修型プログラム(J-ShIP)：(夏季)4か国、38人  
(冬季)4か国、39人
- 関西日本ラトビア協会日本語学習者訪日研修：1か国、1人
- アサンプション・トンブリ学校(タイ) 訪日研修：1か国、14人
- メキシコ州日本語協会訪日研修：1か国、7人
- 日露青年交流センター 日本語履修高校生グループ招へい研修：1か国、30人

### 11 その他の研修

- 大阪府 JET 青年来日時研修：8か国、72人
- 全国 JET 日本語教授法研修：12か国、39人
- 日本につながる子どものための教材収集・共有プロジェクト：6か国、6人

### 12 各センターの図書館

- 日本語国際センター 来館者数：9099人
- 関西国際センター 来館者数：1万4960人

### 13 日本語パートナーズ派遣事業

- 派遣実績  
インド：6人  
インドネシア：59人  
カンボジア：12人  
タイ：52人  
台湾：79人  
中国：13人  
東ティモール：6人  
フィリピン：10人  
ブルネイ：5人  
ベトナム：45人  
マレーシア：34人  
ラオス：4人  
計325人

### 14 日本語パートナーズの帰国後フォローアップ事業

- 日本語パートナーズ感謝状贈呈式及び交流会170人
- 日本語パートナーズ経験者対象 多文化共生ワークショップ in 関西 / 関東  
関東開催：25人  
関西開催：19人

## 1 日本研究機関支援

### 1. 日本研究基盤整備

韓国：高麗大学、ソウル大学日本研究所、ソウル大学アジア言語文学部

中国：浙江工商大学、南開大学、復旦大学

台湾：政治大学

インド：ジャワハルラル・ネルー大学国際関係研究科

バングラデシュ：ダッカ大学

豪州：オーストラリア国立大学

米国：オーバーリン大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、バードカレッジ、

ハンターカレッジ、ペンシルベニア大学、ルイビル大学

### 2. 現代日本理解特別プログラム

米国：イェール大学、インディアナ大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校

イタリア：欧州大学院

### 3. 日本研究プロジェクト助成

●17か国・地域、21件

## 2 北京日本学研究センター

### 1. 招へい事業

●北京外国語大学

訪日研究(修士第39期生)：12人

博士フェロー(第23期生)：5人

●北京大学

訪日研修(第19期)：19人

### 2. 派遣事業(オンライン講義を含む)

●北京外国語大学：6人(派遣)

●北京大学：5人(派遣)、8人(オンライン)

## 3 日本研究者へのフェローシップ供与

●132人(前年度からの滞在継続者を含む)

## 4 日本研究ネットワーク強化

### 1. 海外における日本研究者のネットワーク強化支援

●東アジア日本研究者協議会

●カナダ日本研究学会

●イタリア日本研究学会

●ヨーロッパ日本研究協会

●トルコ日本研究学会

### 2. 日本における内外研究者のネットワーク強化支援

●フェロー交流会(青山学院大学ほか)

## 5 次世代共創パートナーシップー文化の WA2.0ー

### 1. 東南アジア域内団体・機関との連携による研究ネットワーク強化事業

●JSA-ASEAN(東南アジア日本研究学会)

●シンガポール国立大学

●ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学

●インドネシア大学大学院戦略グローバル研究科

●インドネシア大学日本研究センター

●インドネシア日本研究学会

●タイ国日本研究協会

### 2. 東南アジア域外団体・機関との連携による研究ネットワーク強化事業

●アジア学会(AAS及びAAS-in-Asia)

●東京大学東洋文化研究所

●国際日本文化研究センター

●上智大学

### 3. 東南アジア域内(10カ国)を主対象に実施したその他の事業

●助成12件

## 6 国際対話・ネットワーク形成強化事業

●「笑い」に関する実演・対談事業(「日・トルコ外交関係樹立100周年」記念事業及びハンガリー巡回事業)

●「柔道」を通じて障害者の生涯教育・療育・社会参加を考える国際対話事業(「日・カリブ交流年」記念事業)

●「AIで世界は読み解けない?人類学×文学で見る世界」(「朝日地球会議2024」特別共催セッション)

●「インターカルチュラル・シティシンポジウム2024浜松」(浜松市共催)

●ベルリン日独センター共催知的対話事業

●日中知的交流強化事業：個人招へい3件、グループ招へい1件

## 7 FOIP 実現のためのフェローシップ・プログラム

●JFIPP リサーチ・フェローシップ 第2期：11人

●JFIPP ネットワーク・フェローシップ

防災グループ(Indo-Pacific Cooperation Network)第2期：11か国、15人  
気候変動グループ(Indo-Pacific Leadership Lab)第2期：13か国、16人

●日豪次世代対話交流事業(JADE) 第1期：7人(日本3人、オーストラリア4人)

●関連事業 アジア・ソサエティへの助成

## 8 次世代共創知的ネットワーク強化事業

●文化人短期招へい事業：1人

●文芸対話プロジェクト「YOMU」

トークセッション「遊ぶことば、内省のまなざし ～東南アジアの詩人たち」

ライターズ・イン・レジデンス(京都文学レジデンス共催)

計招へい2人

●JF東南アジアパートナーシップ(JFSEAP)事業

ASEAN次世代専門家グループ招へい：8か国、8人

●TASCーTake Actions for Social Change 2024ー 日ASEANユース・フォーラム 20人

●日ASEAN中高教員交流事業：8か国、55人招へい

●AOIP ビジョングループ会合 2025(助成)

## 9 日米グローバル・パートナーシップ強化事業

●JF-CSIS 共催シンポジウム「日米同盟の軌跡～過去・現在・未来～」

●米国知識人招へい事業(オレン・キャス)

●日米グローバル・パートナーシップ強化助成

企画参画助成：3件

公募助成：11件(新規7件／継続4件)

●日米草の根交流コーディネーター事業(JOI) 25人(新規：7人／継続：18人)

●日系アメリカ人リーダーシップ助成

●ニューヨーク日本文化センター事業

日米協会キャバシティービルディング助成事業：7件

草の根アウトリーチ人材支援助成事業：4件

全米日米協会連合会(NAJAS)支援助成事業：1件

教育アウトリーチ小規模助成事業：15件

日米グローバル・パートナーシップ小規模助成事業：5件

安倍フェローシップ・フォローアップ事業：1件

## 10 日中21世紀基金事業

●心連心：中国高校生事業

心連心：中国高校生長期招へい事業 第16期生 10人

日中高校生対話・協働プログラム 8件

●中国「ふれあいの場」

15か所に設置

日本文化セミナー：参加者数のべ1万8093人

「ふれあいの場」代表学生訪日研修：2件(参加者数：45人)

●ネットワーク整備事業

大学生交流事業(派遣)：2件7グループ(参加者数：78人)

日中次世代交流ネットワーク助成：5件(参加者数：212人)

心連心ウェブサイト運営(日中両言語)

## 世界の拠点紹介 (2025年3月31日現在)

### 海外事務所

#### イタリア ローマ日本文化会館

The Japan Cultural Institute in Rome

Address: Via Antonio Gramsci 74, 00197 Roma, Italy

TEL: 39-06-322-4754

#### ドイツ ケルン日本文化会館

The Japan Cultural Institute in Cologne

Address: Universitaetsstrasse 98, 50674

Cologne, Germany

TEL: 49-221-9405580 FAX: 49-221-9405589

URL: <https://co.jpif.go.jp/> (ドイツ語・日本語)

#### フランス パリ日本文化会館

The Japan Cultural Institute in Paris

Address: 101 bis, quai Jacques Chirac, 75740

Paris Cedex 15, France

TEL: 33-1-44-37-9500

URL: <https://www.mcjpf.fr/> (フランス語・日本語)

#### 韓国 ソウル日本文化センター

The Japan Foundation, Seoul

Address: Office Bldg. 2F, Twin City Namsan, 366

Hangang-daero, Yongsan-gu, Seoul 04323 Korea

TEL: 82-2-397-2820 FAX: 82-2-397-2830

URL: <https://www.jpif.or.kr/> (韓国語・日本語)

#### 中国 北京日本文化センター

The Japan Foundation, Beijing

Address: #301, 3F WWT Tower, No. 6 Jia

Jianguomenwai Avenue, Chaoyang District,

Beijing, 100022, China

TEL: 86-10-8567-9511 FAX: 86-10-8567-9075

URL: <https://www.jpfbj.cn/> (中国語・日本語)

#### インドネシア ジャカルタ日本文化センター

The Japan Foundation, Jakarta

Address: Summitmas II Lt.1,2, Jl. Jenderal Sudirman,

Kav. 61-62 Jakarta 12190, Indonesia

TEL: 62-21-520-1266

URL: <https://ja.jpif.go.jp/>

(インドネシア語・英語・日本語)

#### タイ バンコク日本文化センター

The Japan Foundation, Bangkok

Address: 10F Serm-mit Tower, 159 Sukhumvit 21

Road (Asoke Montri), Bangkok 10110, Thailand

TEL: 66-2-260-8560

URL: <https://ba.jpif.go.jp/> (タイ語・英語・日本語)

#### フィリピン マニラ日本文化センター

The Japan Foundation, Manila

Address: 23F, Pacific Star Bldg., Sen. Gil. Puyat

Avenue, Makati Avenue, Makati City, 1226,

Philippines

TEL: 63-2-5322-3200

URL: <https://www.jfmo.org.ph/> (英語)

#### マレーシア クアラルンプール日本文化センター

The Japan Foundation, Kuala Lumpur

Address: 18th Floor, Northpoint Block B, Mid-

Valley City, No.1, Medan Syed Putra, 59200, Kuala

Lumpur, Malaysia

TEL: 60-3-2284-6228 FAX: 60-3-2287-5859

URL: <https://www.jfkl.org.my/> (英語)

#### ミャンマー ヤンゴン日本文化センター

The Japan Foundation, Yangon

Address: No.70 Nat Mauk Lane (1), Bahan

Township, Yangon, Myanmar

TEL: 95-1-430-920/95-1-430-921

FAX: 95-1-430-922

URL: <https://yg.jpif.go.jp/> (ミャンマー語・英語)

#### インド ニューデリー日本文化センター

The Japan Foundation, New Delhi

Address: A-13 Aurobindo Marg, Green Park,

New Delhi, 110016, India

TEL: 91-11-4606-5769/4558-8698

URL: <https://nd.jpif.go.jp/> (英語)

#### オーストラリア シドニー日本文化センター

The Japan Foundation, Sydney

Address: Level 4, Central Park, 28 Broadway,

Chippendale, NSW 2008, Australia

TEL: 61-2-8239-0055

URL: <https://sydney.jpif.go.jp/> (英語)

#### カナダ トロント日本文化センター

The Japan Foundation, Toronto

Address: 2 Bloor Street East, Suite 300,

PO BOX 130, Toronto, Ontario, Canada, M4W 1A8

TEL: 1-416-966-1600

URL: <https://tr.jpif.go.jp/> (英語)

#### 米国 ニューヨーク日本文化センター

The Japan Foundation, New York

Address: 1700 Broadway, 15th Floor, New York,

NY 10019, U.S.A.

TEL: 1-212-489-0299

URL: <https://ny.jpif.go.jp/> (英語)

#### 米国 ロサンゼルス日本文化センター

The Japan Foundation, Los Angeles

Address: 5700 Wilshire Boulevard, Suite 100,

Los Angeles, CA 90036, U.S.A.

TEL: 1-323-761-7510

URL: <https://www.jflalc.org/> (英語)

#### メキシコ メキシコ日本文化センター

The Japan Foundation, Mexico

Address: Av. Ejército Nacional No. 418, Int. 207,

Col. Polanco V sección, C.P. 11560 CDMX, México

TEL: 52-55-5254-8506

URL: <https://mc.jpif.go.jp/> (スペイン語)

#### ブラジル サンパウロ日本文化センター

The Japan Foundation, Sao Paulo

Address: Avenida Paulista, 52-3º andar Bela Vista,

CEP 01310-900, São Paulo-SP, Brasil

TEL: 55-11-3141-0843

URL: <https://fjisp.org.br/> (ポルトガル語)

#### ペルー リマ日本文化センター

The Japan Foundation, Lima

Address: Calle. Coronel Andrés Reyes 360 N°

503 edificio ONYX San Isidro,

Lima 15046, Perú

TEL: 51-1-308-3848

#### 英国 ロンドン日本文化センター

The Japan Foundation, London

Address: 101-111 Kensington High Street,

London, W8 5SA, U.K.

TEL: 44-20-7492-6570

URL: <https://www.jpif.org.uk/> (英語)

#### スペイン マドリード日本文化センター

The Japan Foundation, Madrid

Address: Palacio de Cañete C/ Mayor, 69, 2a

planta 28013 Madrid, Spain

TEL: 34-91-310-1538

URL: <https://md.jpif.go.jp/> (スペイン語・日本語)

(ハンガリー語・日本語・英語)

ハンガリー プダベスト日本文化センター

#### ロシア モスクワ日本文化センター

The Japan Foundation, Moscow

URL: <https://www.jpfmw.ru/> (ロシア語・日本語)

#### エジプト カイロ日本文化センター

The Japan Foundation, Cairo

Address: 5th Floor, 106 Qasr Al-Aini Street,

Garden City, Cairo, Egypt

TEL: 20-2-2794-9431/20-2-2794-9719

#### ベトナム ベトナム日本文化交流センター

The Japan Foundation Center for

Cultural Exchange in Vietnam

Address: No.27 Quang Trung, Cua Nam Ward,

Hanoi, Vietnam

TEL: 84-24-3944-7419 FAX: 84-24-3944-7418

URL: <https://hn.jpif.go.jp/> (ベトナム語・日本語)

#### カンボジア フノムベン連絡事務所

The Japan Foundation,

Phnom Penh Liaison Office

Address: #104, 1st Floor of Hotel Cambodiana,

313 Sisowath Quay, Phnom Penh, Kingdom of

Cambodia

TEL: 855-23-21-4581

URL: <https://pp.jpif.go.jp/> (英語)

#### ラオス ビエンチャン連絡事務所

The Japan Foundation, Vientiane Liaison Office

Address: AGL Building 3rd Floor, 33 Lane Xang

Avenue, Ban Hatsady, Chantabouly District,

Vientiane, Lao PDR

TEL: 856-21-240-280

URL: [https://](https://jfacvt.la/)

国際交流基金は、企業、団体、個人等、広く民間からの資金協力による支援を受けて国際文化交流事業を実施しています。

ここでは、2024年度の民間からの資金協力について寄附金制度を中心に紹介するとともに、主に寄附金制度を通じて資金協力をいただいた方々や、その協力による支援を受けた事業を紹介します。

1. 資金協力の種類

(1)一般寄附金

国際交流基金による国際文化交流事業の経費の財源として活用します。

1. 一般寄附金制度

企業、団体、個人より、時期、金額とも任意で受け入れる寄附金です。2024年度に寄附金をいただいた方々は、次ページの「事業費への寄附者」、「民間出えん金寄附者」のとおりです。

●事業費への寄附

寄附金を受け入れた年度の事業経費として活用します。寄附者の希望により、実施事業の中から、寄附金を充当する事業を指定することも可能です。

●基金(ファンド)への寄附(民間出えん金)

寄附金を基金(ファンド)に組み入れ、その運用利息を毎年度の事業費として恒久的に活用します。過去に受け入れた民間出えん金による2024年度の事業実施状況は、次ページの「民間出えん金による支援事業」のとおりです。

2. 法人会員制度(賛助会)

企業、団体等の法人より年会費として一定額の寄附金を受け入れ、受け入れた年度の事業経費として活用します。1口10万円で、普通会员(1～4口)と特別会員(5口以上)があります。会員には、催しの案内、「国際交流基金年報」の送付等、各種特典を提供しています。2024年度に支援をいただいた会員は次ページの「賛助会会員」のとおりです。

(2)特定寄附金

国内の法人や個人が国内外の国際文化交流事業を支援する場合に、特定公益増進法人である国際交流基金がその支援資金を寄附金として受け入れ、対象事業への助成金として交付する制度です。本制度を利用することで、法人や個人は寄附金に対する税制上の優遇措置を受けることができます。

対象となる事業は、国際文化交流を目的とする人物交流、海外における日本研究や日本語教育、国際文化交流を目的とする公演・展示・セミナー等の催し等です。特定寄附金の受入れは、外部専門家で構成される審査委員会への諮問を経て決定します。2024年度の支援事業は次ページの「特定寄附金による支援事業」のとおりです。

(3)その他

上記の寄附金のほか、協賛金、助成金等、さまざまな形で民間からの資金協力による支援をいただいております。2024年度の主な支援の例は、次ページの「寄附金以外の主な支援例」のとおりです。

2. 寄附金に対する税制上の優遇措置

国際交流基金は法人税法施行令第77条及び所得税法施行令第217条により「公益の増進に著しく寄与する法人」(特定公益増進法人)に指定されており、上記の資金協力のうち、国内での寄附金については税制上の優遇措置の対象となります。

(1)法人の場合

特定公益増進法人に対する寄附金の合計額、または、特別損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。

(注1) 特定公益増進法人に対する寄附金のうち、損金に算入されなかった金額(特別損金算入限度額を超える部分の金額)は、通常の寄附金の額に含めます。寄附金の損金算入限度額は次の算式によります。

●特定公益増進法人に対する寄附金の損金算入限度額  
(特別損金算入限度額)  
(資本金等の額×当期の月数/12×0.375%+所得の金額×6.25%)×1/2

●通常の寄附金の損金算入限度額  
(資本金等の額×当期の月数/12×0.25%+所得の金額×2.5%)×1/4

(2)個人の場合

所得の40%を上限として、寄附金の合計額から2,000円を差し引いた金額が所得控除の対象となります。相続財産からの寄附についても、税制上の優遇措置があります。

3. 2024年度寄附金額実績

|         | 件数  | 金額                 |
|---------|-----|--------------------|
| 一般寄附金   | 37件 | 21,511,731円        |
| 賛助会     | 26件 | 4,900,000円         |
| 事業費への寄附 | 7件  | 15,982,500円        |
| 民間出えん金  | 2件  | 629,231円           |
| 特定寄附金   | 18件 | 4,499,475,586円(注2) |

(注2) うち、4,503,929,486円(2022年度より繰り越した特定寄附金20,832,900円含む)を17事業(次ページ「特定寄附金による支援事業」参照)に対する助成金として交付しました。残額(16,379,000円)は、4件の事業に対する助成金として2025年度に交付予定です。

(注3) 1972年の国際交流基金設立以来2024年度末までの累計で、一般寄附金として約32億9,519万円、特定寄附金として約769億2,114万円を受け入れています。

(注4) 寄附金以外の民間からの資金協力として、2024年度に総額約8,500万円の支援(協賛金、助成金等)をいただいています。

2024年度の寄附金等による支援者や支援事業一覧

事業費への寄附者(( )内は寄附対象事業、順不同)

大成建設(株)、鹿島建設(株)、三和ファサード・ラボ(株)及びYKK AP(株)(第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展における日本館展示)

カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)(日本の現代アート若手作家支援)

サン・インベストメント(株)(外国人による日本語弁論大会)

S&R Evermay Foundation ほか個人1名(事業費全般)

民間出えん金寄附者

川崎市国際交流協会/日本語講座ボランティア友の会ほか個人1人

民間出えん金による支援事業(順不同)

(寄附者の意向に基づき特別事業を設定し、事業名に寄附者の名を付する冠寄附の例)

高砂熱学工業・日本研究フェローシップ  
(寄附者は高砂熱学工業(株))

渡辺健基金・日本研究フェローシップ  
(寄附者は渡辺行信氏、米国研修中に事故で逝去された元外務省職員渡辺健氏のご遺族)

賛助会会員(2024年度末現在、50音順)

(1)特別会員

SMBC 日興証券(株)/松竹(株)/ (株)みずほ銀行

(2)普通会员

(公財)あすか財団/ (一財)池坊華道会/出光興産(株)/ (一財)NHK 財団/カトーレック(株)/ (株)講談社/ (公財)講道館/ (一財)今日庵/ (株)資生堂/ (一財)少林寺拳法連盟/ (一財)全日本剣道連盟/ (株)第一成和事務所/大和証券(株)/東京ビジネスサービス(株)/ (一社)日本映画製作者連盟/ (株)日本折紙協会/ (一財)日本国際協力センター/野村證券(株)/ (株)凡人社/ (株)三井住友銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)/森ビル(株)ほか法人1社

特定寄附金による支援事業(( )内は事業実施国、順不同)

アジア女子大学奨学金プログラム 2件(バングラデシュ)

日米交流財団フェローシッププログラム(米国、日本)

三笠宮記念財団支援事業(トルコ)

ミシガン大学ロースクール・フェローシップ・ファンド(米国)

サッカー/スポーツを通じた国際交流・人材育成事業(ミャンマー、日本)

CWAJ 女性のための国際文化交流奨学金制度(日本他)

柳井イニシアティブ グローバル・ジャパン・ヒューマニティーズ・プロジェクト(米国)

LSH アジア奨学金(日本)

第28回ホノルルフェスティバル(米国)

MOGU 絵本プロジェクト(ベトナム)

バルカン室内管弦楽団公演2024(日本)

「ミュージック・フロム・シャパン創立50周年記念音楽祭」アーティスト・レジデンス(米国)

JACSO 海外公演プロジェクト2024(イタリア)

四天王寺ワッソ(日本)

日韓交流おまつり2024 in Tokyo(日本)

「間」展シルクロード(イラン、ジョージア、ウズベキスタン)

寄附金以外の主な支援例(順不同)

パリ日本文化会館・日本友の会(会員82社(2024年度末現在)によるパリ日本文化会館の事業実施への支援)

(公財)石橋財団(日本美術リサーチフェローシップ事業への寄附助成、現代美術キュレータ等交流事業への寄附助成、ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展における日本館展示への寄附助成)

(株)竹中工務店(第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展における日本館展示協賛)

(一社)尚友倶楽部(ベトナム日本文化交流センター JF さくらネットワーク尚友倶楽部助成金、教師研修特別講座助成金、教師研修特別講座日本語教材助成金)

(公財)かめのり財団(「にほんご人フォーラム」関連事業共催分担金)

財務諸表

令和 6 年度 決算報告書（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）（単位：円）

| 区別               | 文化芸術交流事業費     |               |               |     | 海外日本語事業費      |               |               |     | 海外日本研究・国際対話事業費 |               |               |    |
|------------------|---------------|---------------|---------------|-----|---------------|---------------|---------------|-----|----------------|---------------|---------------|----|
|                  | 予算額           | 決算額           | 差額            | 備考  | 予算額           | 決算額           | 差額            | 備考  | 予算額            | 決算額           | 差額            | 備考 |
| ▼収入              |               |               |               |     |               |               |               |     |                |               |               |    |
| 運営費交付金           | 1,572,103,000 | 1,572,103,000 | 0             |     | 4,627,679,000 | 4,627,679,000 | 0             |     | 920,182,000    | 920,182,000   | 0             |    |
| 施設整備費補助金         | 0             | 0             | 0             |     | 0             | 195,494,325   | 195,494,325   | ※ 2 | 0              | 0             | 0             |    |
| 運用収入             | 0             | 74,815        | 74,815        |     | 0             | 1,558,957     | 1,558,957     |     | 694,453,000    | 644,168,608   | △ 50,284,392  |    |
| 寄附金収入            | 28,150,000    | 13,981,944    | △ 14,168,056  |     | 0             | 863,585       | 863,585       |     | 0              | 285,733       | 285,733       |    |
| 受託収入             | 0             | 0             | 0             |     | 58,699,000    | 59,941,349    | 1,242,349     |     | 0              | 0             | 0             |    |
| アジア文化交流強化基金取崩収入  | 514,635,000   | 299,312,284   | △ 215,322,716 |     | 2,156,932,000 | 1,824,122,504 | △ 322,809,496 |     | 501,127,000    | 239,846,920   | △ 261,280,080 |    |
| その他収入            | 0             | 90,421,494    | 90,421,494    |     | 2,256,926,000 | 3,170,135,398 | 913,209,398   |     | 27,760,000     | 55,040,292    | 27,280,292    |    |
| 前中期目標期間繰越積立金取崩収入 | 0             | 0             | 0             |     | 0             | 0             | 0             |     | 0              | 3,717,457     | 3,717,457     |    |
| 計                | 2,114,888,000 | 1,975,893,537 | △ 138,994,463 |     | 9,100,236,000 | 9,879,795,118 | 779,559,118   |     | 2,143,522,000  | 1,863,241,010 | △ 280,280,990 |    |
| ▼支出              |               |               |               |     |               |               |               |     |                |               |               |    |
| 業務経費             | 2,244,733,000 | 1,787,920,617 | 456,812,383   | ※ 1 | 9,100,236,000 | 8,106,812,226 | 993,423,774   | ※ 1 | 2,152,190,000  | 2,144,236,848 | 7,953,152     |    |
| 施設整備費            | 0             | 0             | 0             |     | 0             | 188,023,284   | △ 188,023,284 | ※ 2 | 0              | 0             | 0             |    |
| 一般管理費            | 0             | 0             | 0             |     | 0             | 0             | 0             |     | 0              | 0             | 0             |    |
| うち人件費            | 0             | 0             | 0             |     | 0             | 0             | 0             |     | 0              | 0             | 0             |    |
| 物件費              | 0             | 0             | 0             |     | 0             | 0             | 0             |     | 0              | 0             | 0             |    |
| 予備費              | 0             | 0             | 0             |     | 0             | 0             | 0             |     | 0              | 0             | 0             |    |
| 計                | 2,244,733,000 | 1,787,920,617 | 456,812,383   |     | 9,100,236,000 | 8,294,835,510 | 805,400,490   |     | 2,152,190,000  | 2,144,236,848 | 7,953,152     |    |

| 区別               | 調査研究・情報提供等事業費 |             |              |    | 在外事業費         |               |               |    | 文化交流施設等協力事業費 |               |                 |     |
|------------------|---------------|-------------|--------------|----|---------------|---------------|---------------|----|--------------|---------------|-----------------|-----|
|                  | 予算額           | 決算額         | 差額           | 備考 | 予算額           | 決算額           | 差額            | 備考 | 予算額          | 決算額           | 差額              | 備考  |
| ▼収入              |               |             |              |    |               |               |               |    |              |               |                 |     |
| 運営費交付金           | 554,456,000   | 554,456,000 | 0            |    | 3,680,915,000 | 3,680,915,000 | 0             |    | 0            | 0             | 0               |     |
| 施設整備費補助金         | 0             | 0           | 0            |    | 0             | 0             | 0             |    | 0            | 0             | 0               |     |
| 運用収入             | 9,781,000     | 547,014     | △ 9,233,986  |    | 99,917,000    | 192,550,164   | 92,633,164    |    | 0            | 99,377        | 99,377          |     |
| 寄附金収入            | 6,192,000     | 303,018     | △ 5,888,982  |    | 0             | 5,340,550     | 5,340,550     |    | 369,095,000  | 4,499,530,636 | 4,130,435,636   | ※ 3 |
| 受託収入             | 0             | 0           | 0            |    | 0             | 0             | 0             |    | 0            | 0             | 0               |     |
| アジア文化交流強化基金取崩収入  | 30,000,000    | 16,529,251  | △ 13,470,749 |    | 196,609,000   | 210,176,542   | 13,567,542    |    | 0            | 0             | 0               |     |
| その他収入            | 31,827,000    | 59,163      | △ 31,767,837 |    | 704,358,000   | 107,806,402   | △ 596,551,598 |    | 9,603,000    | 0             | △ 9,603,000     |     |
| 前中期目標期間繰越積立金取崩収入 | 0             | 0           | 0            |    | 0             | 0             | 0             |    | 0            | 0             | 0               |     |
| 計                | 632,256,000   | 571,894,446 | △ 60,361,554 |    | 4,681,799,000 | 4,196,788,658 | △ 485,010,342 |    | 378,698,000  | 4,499,630,013 | 4,120,932,013   |     |
| ▼支出              |               |             |              |    |               |               |               |    |              |               |                 |     |
| 業務経費             | 632,256,000   | 611,820,286 | 20,435,714   |    | 4,681,799,000 | 4,929,760,456 | △ 247,961,456 |    | 378,698,000  | 4,514,093,161 | △ 4,135,395,161 | ※ 3 |
| 施設整備費            | 0             | 0           | 0            |    | 0             | 0             | 0             |    | 0            | 0             | 0               |     |
| 一般管理費            | 0             | 0           | 0            |    | 0             | 0             | 0             |    | 0            | 0             | 0               |     |
| うち人件費            | 0             | 0           | 0            |    | 0             | 0             | 0             |    | 0            | 0             | 0               |     |
| 物件費              | 0             | 0           | 0            |    | 0             | 0             | 0             |    | 0            | 0             | 0               |     |
| 予備費              | 0             | 0           | 0            |    | 0             | 0             | 0             |    | 0            | 0             | 0               |     |
| 計                | 632,256,000   | 611,820,286 | 20,435,714   |    | 4,681,799,000 | 4,929,760,456 | △ 247,961,456 |    | 378,698,000  | 4,514,093,161 | △ 4,135,395,161 |     |

| 区別               | 法人共通          |               |              |    | 合計             |                |                 |    |
|------------------|---------------|---------------|--------------|----|----------------|----------------|-----------------|----|
|                  | 予算額           | 決算額           | 差額           | 備考 | 予算額            | 決算額            | 差額              | 備考 |
| ▼収入              |               |               |              |    |                |                |                 |    |
| 運営費交付金           | 1,725,513,000 | 1,725,513,000 | 0            |    | 13,080,848,000 | 13,080,848,000 | 0               |    |
| 施設整備費補助金         | 0             | 0             | 0            |    | 0              | 195,494,325    | 195,494,325     |    |
| 運用収入             | 0             | 94,992        | 94,992       |    | 804,151,000    | 839,093,927    | 34,942,927      |    |
| 寄附金収入            | 0             | 52,620        | 52,620       |    | 403,437,000    | 4,520,358,086  | 4,116,921,086   |    |
| 受託収入             | 0             | 0             | 0            |    | 58,699,000     | 59,941,349     | 1,242,349       |    |
| アジア文化交流強化基金取崩収入  | 15,839,000    | 533,420       | △ 15,305,580 |    | 3,415,142,000  | 2,590,520,921  | △ 824,621,079   |    |
| その他収入            | 0             | 3,865,152     | 3,865,152    |    | 3,030,474,000  | 3,427,327,901  | 396,853,901     |    |
| 前中期目標期間繰越積立金取崩収入 | 0             | 0             | 0            |    | 0              | 3,717,457      | 3,717,457       |    |
| 計                | 1,741,352,000 | 1,730,059,184 |              |    | 20,792,751,000 | 24,717,301,966 | 3,924,550,966   |    |
| ▼支出              |               |               |              |    |                |                |                 |    |
| 業務経費             | 0             | 0             | 0            |    | 19,189,912,000 | 22,094,643,594 | △ 2,904,731,594 |    |
| 施設整備費            | 0             | 0             | 0            |    | 0              | 188,023,284    | △ 188,023,284   |    |
| 一般管理費            | 1,991,352,000 | 1,838,888,158 | 152,463,842  |    | 1,991,352,000  | 1,838,888,158  | 152,463,842     |    |
| うち人件費            | 604,511,000   | 672,406,385   | △ 67,895,385 |    | 604,511,000    | 672,406,385    | △ 67,895,385    |    |
| 物件費              | 1,136,841,000 | 1,166,481,773 | △ 29,640,773 |    | 1,136,841,000  | 1,166,481,773  | △ 29,640,773    |    |
| 予備費              | 250,000,000   | 0             | 250,000,000  |    | 250,000,000    | 0              | 250,000,000     |    |
| 計                | 1,991,352,000 | 1,838,888,158 | 152,463,842  |    | 21,181,264,000 | 24,121,555,036 | △ 2,940,291,036 |    |

- ※ 1 令和 6 年度補正予算が予算額に含まれていますが、一部を翌年に繰り越したこと等によるものです。
- ※ 2 令和 5 年度補正予算が予算額に含まれていませんが、決算額には含まれていること等によるものです。
- ※ 3 大口の寄附金収入が合ったことによるものです。

貸借対照表（2025 年 3 月 31 日）（単位：円）

|               | 資 産 の 部         |                 |
|---------------|-----------------|-----------------|
|               |                 |                 |
| Ⅰ<br>流動資産     | 現金及び預金          | 17,958,839,486  |
|               | 有価証券            | 4,695,988,620   |
|               | 前払金             | 42,818,421      |
|               | 前払費用            | 109,887,278     |
|               | 未収収益            | 266,939,852     |
|               | 未収金             | 1,272,680,853   |
|               | 賞与引当金見返（注）      | 308,908,256     |
|               | その他の流動資産        | 16,053,831      |
|               | 流動資産合計          | 24,672,116,597  |
| Ⅱ<br>固定資産     | 1 有形固定資産        |                 |
|               | 建物              | 14,013,679,608  |
|               | 減価償却累計額         | △ 8,063,531,054 |
|               | 構築物             | 312,740,798     |
|               | 減価償却累計額         | △ 310,361,795   |
|               | 機械装置            | 56,678,236      |
|               | 減価償却累計額         | △ 45,032,812    |
|               | 車両運搬具           | 120,038,804     |
|               | 減価償却累計額         | △ 96,639,539    |
|               | 工具器具備品          | 1,927,033,038   |
|               | 減価償却累計額         | △ 1,488,741,818 |
|               | 美術品             | 553,097,821     |
|               | 減価償却累計額         | △ 60,738,282    |
|               | 土地              | 20,407,000      |
|               | 建設仮勘定           | 38,460,598      |
|               | 有形固定資産合計        | 6,977,090,603   |
|               | 2 無形固定資産        |                 |
|               | ソフトウェア          | 582,551,831     |
|               | 電話加入権           | 428,000         |
|               | 無形固定資産合計        | 582,979,831     |
|               | 3 投資その他の資産      |                 |
|               | 投資有価証券          | 72,178,877,860  |
|               | 長期預金            | 17,700,000,000  |
|               | 敷金保証金           | 437,109,224     |
|               | 退職給付引当金見返（注）    | 1,969,624,354   |
|               | 前払年金費用          | 503,695,346     |
|               | 投資その他の資産合計      | 92,789,306,784  |
|               | 固定資産合計          | 100,349,377,218 |
|               | 資産合計            | 125,021,493,815 |
|               | 負 債 の 部         |                 |
|               |                 |                 |
| Ⅰ<br>流動負債     | 運営費交付金債務（注）     | 2,827,252,375   |
|               | 預り補助金等（注）       | 4,834,592,000   |
|               | 預り寄附金（注）        | 168,818,980     |
|               | 未払金             | 1,168,355,113   |
|               | 未払消費税           | 20,216,200      |
|               | 前受金             | 23,105,448      |
|               | 預り金             | 26,801,647      |
|               | 前受収益            | 7,718,362       |
|               | リース債務           | 2,286,252       |
|               | 引当金             |                 |
|               | 賞与引当金           | 354,008,976     |
|               | 流動負債合計          | 9,433,155,353   |
| Ⅱ<br>固定負債     | 資産見返負債（注）       |                 |
|               | 資産見返運営費交付金      | 1,599,443,199   |
|               | 資産見返補助金等        | 2,222,986       |
|               | 資産見返寄附金         | 1,699,149       |
|               | 建設仮勘定見返運営費交付金   | 38,157,947      |
|               | 長期預り補助金等（注）     | 32,715,960,435  |
|               | 引当金             |                 |
|               | 退職給付引当金         | 2,473,319,700   |
|               | 資産除去債務          | 93,893,434      |
|               | 固定負債合計          | 36,924,696,850  |
|               | 負債合計            | 46,357,852,203  |
|               | 純 資 産 の 部       |                 |
|               |                 |                 |
| Ⅰ<br>資本金      | 政府出資金           | 77,654,185,177  |
|               | 資本金合計           | 77,654,185,177  |
| Ⅱ<br>資本剰余金    | 資本剰余金           | 751,358,879     |
|               | その他行政コスト累計額（注）  | △ 8,639,798,746 |
|               | 減価償却相当累計額（△）    | △ 7,682,612,331 |
|               | 減損損失相当累計額（△）    | △ 126,000       |
|               | 利息費用相当累計額（△）    | △ 7,984,775     |
|               | 除売却差額相当累計額（△）   | △ 949,075,640   |
|               | 民間出えん金（注）       | 909,682,018     |
|               | 資本剰余金合計         | △ 6,978,757,849 |
| Ⅲ<br>利益剰余金    | 前中期目標期間繰越積立金（注） | 1,446,300,235   |
|               | 積立金             | 6,351,597,204   |
|               | 当期未処分利益         | 174,464,504     |
|               | （うち当期総利益）       | 2,262,684,977   |
| Ⅳ<br>評価・換算差額等 | 利益剰余金合計         | 7,972,361,943   |
|               | 繰延ヘッジ損益         | 15,852,341      |
|               | 評価・換算差額等合計      | 15,852,341      |
|               | 純資産合計           | 78,663,641,612  |
|               | 負債純資産合計         | 125,021,493,815 |

（注）これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目です。

# 財務諸表

損益計算書（2024年4月1日～2025年3月31日）（単位：円）

| 経常費用              |                |                |
|-------------------|----------------|----------------|
| 文化芸術交流事業費         | 1,764,824,493  |                |
| 海外日本語事業費          | 8,244,696,878  |                |
| 海外日本研究・国際対話事業費    | 2,144,491,428  |                |
| 調査研究・情報提供等事業費     | 682,493,918    |                |
| 在外事業費             | 4,962,796,301  |                |
| 文化交流施設等協力事業費      | 4,514,093,161  |                |
| 一般管理費             | 1,701,850,403  |                |
| 財務費用              | 558,351        |                |
| 雑損                | 365,435,750    |                |
| 経常費用合計            |                | 24,381,240,683 |
| 経常収益              |                |                |
| 運営費交付金収益（注）       | 11,688,472,336 |                |
| 運用収益              | 878,760,843    |                |
| 受託収入              | 62,887,998     |                |
| 補助金等収益（注）         | 2,611,155,907  |                |
| 施設費収益（注）          | 11,163,710     |                |
| 寄附金収益（注）          |                |                |
| 寄附金収益             | 69,138,255     |                |
| 特定寄附金収益           | 4,503,929,486  | 4,573,067,741  |
| 資産見返戻入（注）         |                |                |
| 資産見返運営費交付金戻入      | 428,330,965    |                |
| 資産見返補助金等戻入        | 472,675        |                |
| 資産見返寄附金戻入         | 924,687        | 429,728,327    |
| 賞与引当金見返に係る収益（注）   |                | 266,804,540    |
| 退職給付引当金見返に係る収益（注） |                | 48,575,997     |
| 財務収益              |                |                |
| 受取利息              | 2,794,110      | 2,794,110      |
| 雑益                |                |                |
| 日本語能力試験受験料等収益     | 2,161,468,403  |                |
| その他の雑益            | 1,443,557,075  | 3,605,025,478  |
| 経常収益合計            |                | 24,178,436,987 |
| 経常損失              |                | 202,803,696    |

| 臨時損失    |            |            |
|---------|------------|------------|
| 固定資産除却損 | 17,064,387 |            |
| 減損損失    | 19,962,210 |            |
| 前期損益修正損 | 12,220,301 | 49,246,898 |

| 臨時利益            |            |            |
|-----------------|------------|------------|
| 資産見返運営費交付金戻入（注） | 37,026,596 |            |
| 資産見返寄附金戻入（注）    | 1          |            |
| 固定資産売却益         | 1,871,542  |            |
| 前期損益修正益         | 12,671,900 | 51,570,039 |

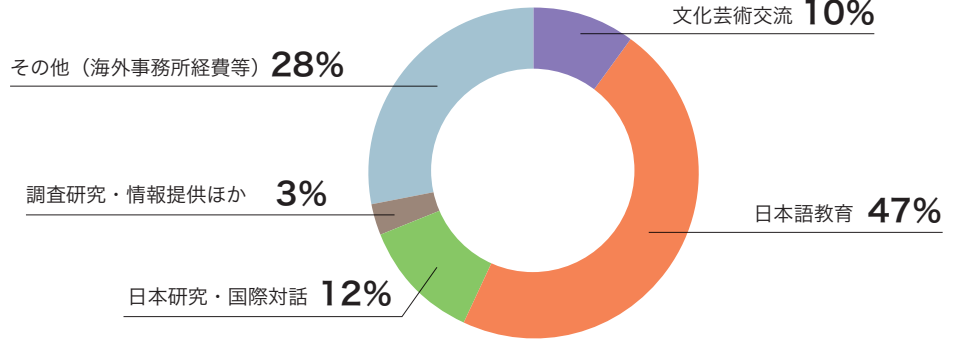
|                    |             |
|--------------------|-------------|
| 当期純損失              | 200,480,555 |
| 前中期目標期間繰越積立金取崩額（注） | 374,945,059 |
| 当期総利益              | 174,464,504 |

（注）これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目です。

利益の処分にに関する書類（2025年7月10日）（単位：円）

| I 当期末処分利益 | 174,464,504 |
|-----------|-------------|
| 当期総利益     | 174,464,504 |
| II 利益処分別  |             |
| 積立金       | 174,464,504 |

## 2024年度事業分野別支出構成比



# 諮問委員会等（2024年度）

以下の方々に、委員としてご協力いただいています。  
（50音・アルファベット順、敬称略）

諮問委員会等 ※ 2025年3月31日現在

## 日本研究米国諮問委員会 American Advisory Committee for Japanese Studies

- Nobuko Adachi（イリノイ州立大学教授）
  - Manabu Akagawa（東京大学教授）
  - Lee Branstetter（カーネギーメロン大学教授）
  - Alisa Freedman（オレゴン大学教授）
  - Kaoru Iokibe（東京大学教授）
  - Saori Katada（南カリフォルニア大学教授）
  - Melissa McCormick（ハーバード大学教授）
  - Levi McLaughlin（ノースカロライナ州立大学教授）
- Karen Nakamura（カリフォルニア大学バークレー校教授）
  - Robert J. Pekkanen（ワシントン大学教授）
  - Morgan Pitelka（ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授）
  - Annelise Riles（ノースウェスタン大学教授）
  - Doug Slaymaker（ケンタッキー大学教授）
  - Kären Wigen（スタンフォード大学教授）
  - Satomi Yamamoto（早稲田大学教授）

## パリ日本文化会館運営審議会

### フランス側委員

- Louis Schweitzer（日仏パートナーシップ欧州・外務大臣特別代表）  
【フランス側共同座長】
- Hortense Archambault（セーヌ・サン・ドニ県文化会館館長）
- Jacques Aschenbroich（オランジュ社取締役会長）
- Estelle Brachlianoff（ヴェオリア社最高執行責任者）
- Anne Démians（建築家、都市計画家）
- Philippe Faure（元駐日フランス大使）
- Michael Lucken（国立東洋言語文化学院教授）
- Jean-Robert Pitte（フランス地理学会会長）
- Christian Sautter（社会科学高等研究院日仏財団副理事長）
- Diane de Selliers（ディアース・ド・セリエ出版）

### 日本側委員

- 松浦 晃一郎（第8代ユネスコ事務局長）【日本側共同座長】
- 雨宮 塔子（アーティスト、フリーアナウンサー）
- 石井 リーサ 明理（照明デザイナー／I.C.O.N. 代表）
- 梅本 和義（国際交流基金顧問）
- 柏倉 康夫（放送大学名誉教授）
- 堀場 厚（株式会社堀場製作所代表取締役会長兼グループ CEO）
- 宮本 洋一（清水建設株式会社代表取締役会長）

# 組織図（2025年3月31日現在）



# ウェブサイト・ソーシャルメディアのご案内

## ウェブサイト

### 国際交流基金ウェブサイト



<https://www.jpf.go.jp/>  
JFの事業、イベント等の最新情報、公募プログラムの募集情報、便利な日本語教材、過去に行った調査報告、海外事務所のウェブサイトへのリンク等、さまざまな情報を発信しています。

### オンライン・コンテンツ（動画、読み物等）

オンラインで楽しめる公演や展示、講演会・セミナー等の動画や、文化交流の最前線に立つ人々のインタビューや寄稿等のコンテンツを提供しています。

- JF digital collection [https://www.jpf.go.jp/j/project/digital\\_collection/index.html](https://www.jpf.go.jp/j/project/digital_collection/index.html)
- ウェブマガジン「をちこち」 <https://www.wochikochi.jp/>
- 舞台芸術ウェブサイト「PANJ（Performing Arts Network Japan）」 <https://performingarts.jpf.go.jp>
- 舞台公演オンライン配信プロジェクト「STAGE BEYOND BORDERS」 <https://stagebb.jpf.go.jp/>
- 芸術・文化紹介映像配信ポータルサイト「Doors to Arts of Japan」 <https://www.daj.jpf.go.jp/>
- ヴェネチア・ビエンナーレ日本館公式サイト <https://venezia-biennale-japan.jpf.go.jp/j/>
- 日本映画等映像コンテンツ配信プラットフォーム「JFF Theater」 <https://www.jff.jpf.go.jp/ja/>
- 日中 21 世紀交流事業（心連心ウェブサイト） <https://xinlianxin.jpf.go.jp/>
- 日本語教育オンライン事業 <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/online/>
- 日米草の根交流コーディネーター派遣（JOI）プログラム <https://www.jpf.go.jp/j/project/intel/exchange/joi/index.html>

### 日本語教育関係の情報

- 【試験】  
日本語学習者の日本語能力評価のための試験に関する情報を提供しています。
- 日本語の試験を受ける <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/test/>
- 【日本語教師支援】  
日本語教師の育成、日本語教材情報、授業のアイディア、海外の日本語教育の現場の声等の情報を提供しています。
- 日本語を教える <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/index.html>
- 【日本語学習者支援】  
日本語学習の教材や、オンラインで学べる e ラーニングサイト、映像・ウェブ教材等を提供しています。
- 日本語を学ぶ <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/education/index.html>
- 【日本語教育事情】  
全世界を対象とする「海外日本語教育機関調査」の報告書や、各国の日本語教育事情等の情報を提供しています。
- 日本語教育について調べる <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/index.html>
- 【日本語パートナーズ派遣事業】  
アジアの中学・高校等で日本語を教える教師やその生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや、日本文化の紹介をする人を派遣しています。
- 日本語パートナーズ <https://asiawa.jpf.go.jp/partners/>

### 次世代共創パートナーシップ ―文化の WA2.0―

JFは、日本と ASEANの次世代の交流促進と人材育成を目的とする包括的な人的交流事業を、今後10年間にわたり集中的に実施します。

- 次世代共創パートナーシップ ―文化の WA2.0 ― 特設サイト <https://asiawa.jpf.go.jp/>

### 資料／リソース／データベース

- 【翻訳・出版】  
外国語に翻訳されている日本の文学作品や、翻訳出版にお薦めの図書に関する情報を提供しています。
- 日本文学翻訳作品データベース <https://jltrans-opac.jpf.go.jp/>
  - 翻訳推薦著作リスト "Worth Sharing" <https://www.worthsharing.jpf.go.jp/>
  - 翻訳推薦著作リスト "Lifelong Favorites"（児童書版）  
<https://www.worthsharing.jpf.go.jp/lifelong-favorites/>
  - 文芸事業ポータルサイト「Bookmark\_JF」 <https://www.bookmark.jpf.go.jp/>

- 【映画】  
約 7000 本以上の日本映画の情報を、日本語・英語で発信しています。
- 日本映画データベース（JFDB） <https://jfdb.jp/>

## ソーシャルメディア

JFの事業のさまざまな情報を発信しています。ぜひフォローをお願いします。

-  ● YouTube <youtube.com/@thejapanfoundation>
-  ● Facebook <facebook.com/TheJapanfoundation>
-  ● X <x.com/japanfoundation/>
-  ● Instagram <Instagram.com/japanfoundation/>

各事業や附属機関・支部、海外事務所も、事業の特性や地域のニーズに合わせた独自の発信を行っています。それぞれのアカウントについては、下記の QRコードよりアクセスください。



[https://www.jpf.go.jp/j/policy/official\\_accounts.html](https://www.jpf.go.jp/j/policy/official_accounts.html)